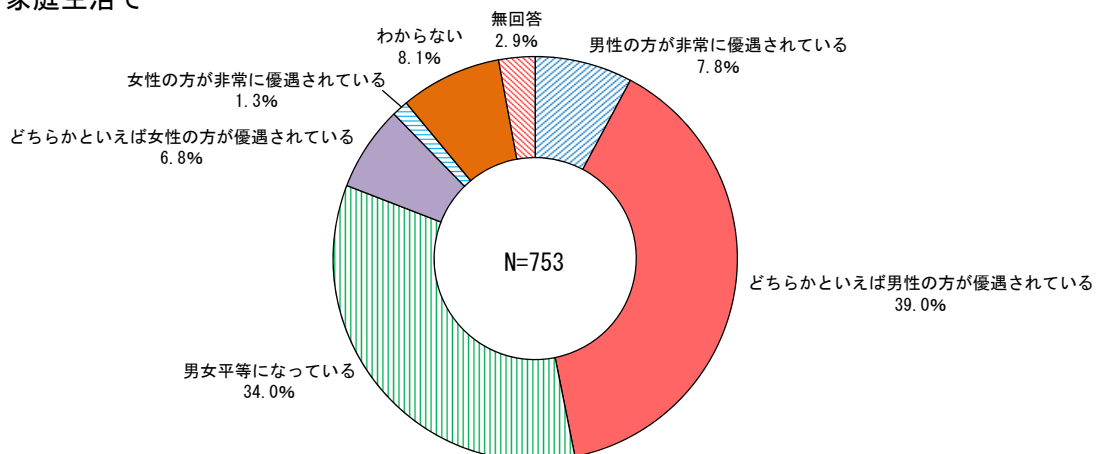


4 男女平等参画について

問1 あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(1)～(7)の項目について、それぞれ1つだけお選びください。

(1) 家庭生活で



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.0%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「男女平等になっている」(34.0%)、「わからない」(8.1%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、オホーツク圏(43.2%)が最も割合が高く、次いで道央圏(41.6%)となっている。「男女平等になっている」については、釧路・根室圏(42.0%)が最も割合が高く、次いで十勝圏(41.9%)となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、人口10万人未満の都市(47.7%)が最も割合が高く、次いで札幌市(39.5%)となっている。「男女平等になっている」については、町村部(43.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(33.6%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、男性31.5%、女性44.7%となっており、「男女平等になっている」については、男性42.9%、女性27.4%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、70歳以上(44.4%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(42.0%)となっている。「男女平等になっている」については、20～29歳(46.8%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(35.9%)となっている。

【職種別】

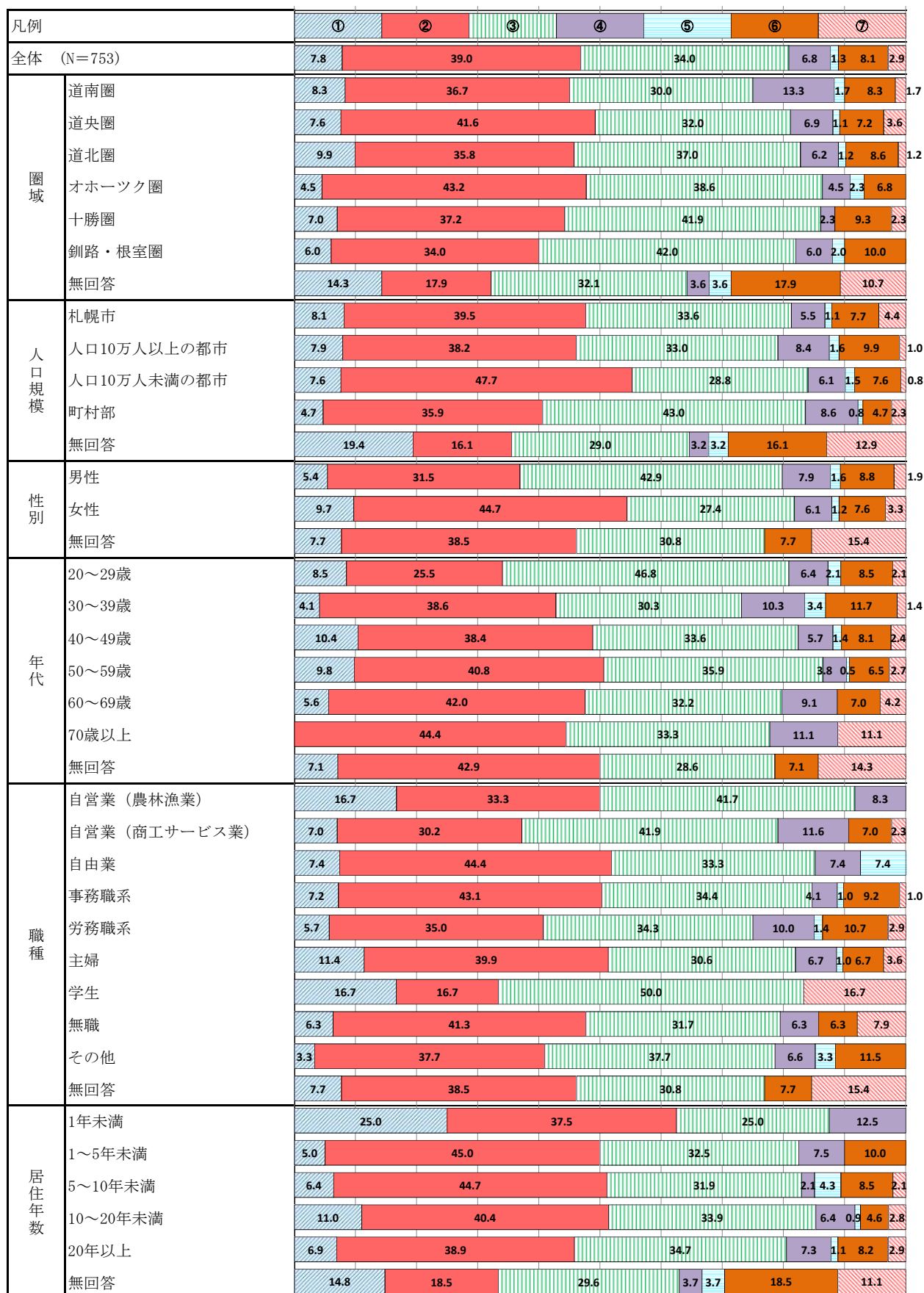
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、自由業(44.4%)が最も割合が高く、次いで事務職系(43.1%)となっている。「男女平等になっている」については、学生(50.0%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(41.9%)となっている。

【居住年数別】

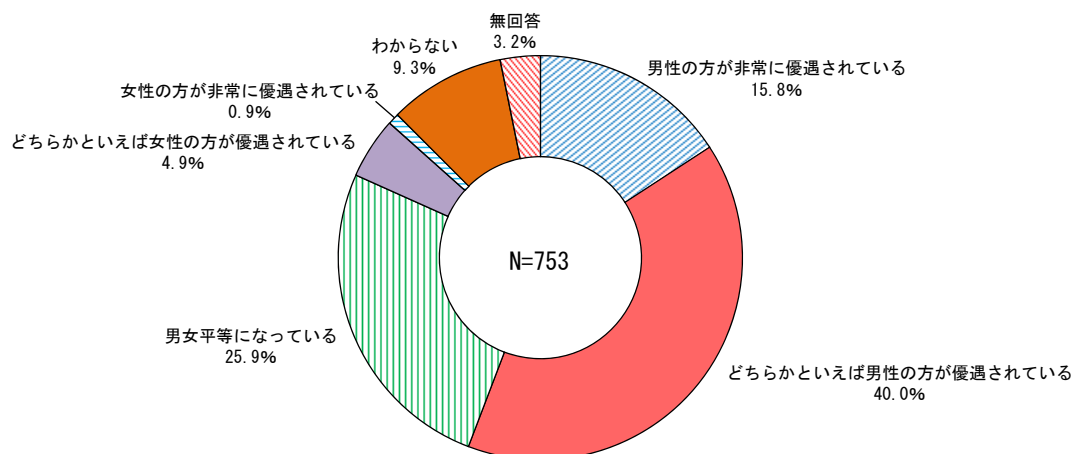
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、1～5年未満(45.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(44.7%)となっている。「男女平等になっている」については、20年以上(34.7%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(33.9%)となっている。

①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ③男女平等になっている ④どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ⑤女性の方が非常に優遇されている ⑥わからない ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



(2) 職場で



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(40.0%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「男女平等になっている」(25.9%)、「男性の方が非常に優遇されている」(15.8%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、道南圏(45.0%)が最も割合が高く、次いで十勝圏(44.2%)となっている。「男女平等になっている」については、オホーツク圏(38.6%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(30.0%)となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、人口10万人未満の都市(48.5%)が最も割合が高く、次いで町村部(42.2%)となっている。「男女平等になっている」については、札幌市(29.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(27.2%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、男性39.1%、女性41.4%となっており、「男女平等になっている」については、男性29.0%、女性23.6%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、20～29歳(48.9%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(45.5%)となっている。「男女平等になっている」については、20～29歳(31.9%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(29.9%)となっている。

【職種別】

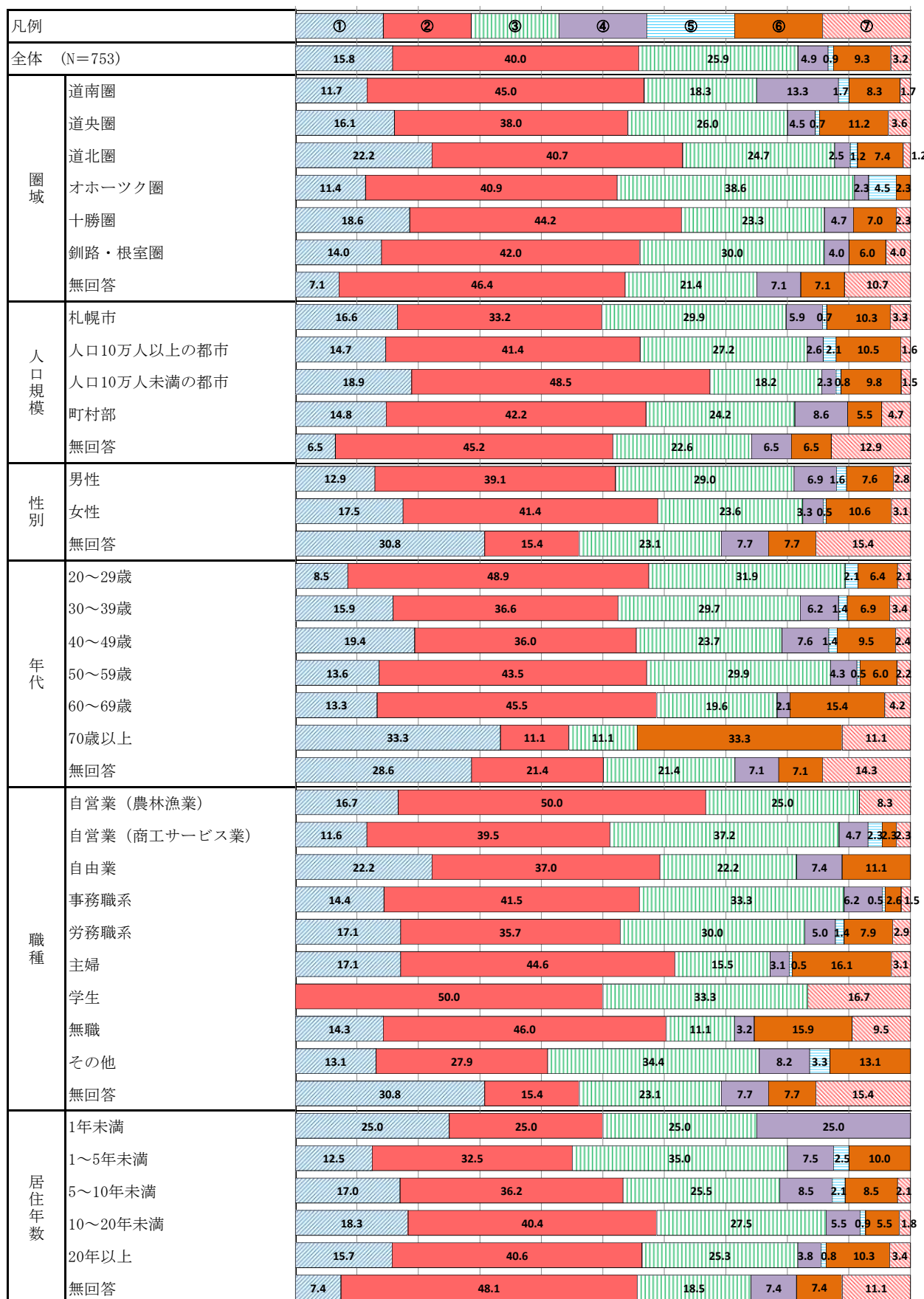
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、自営業(農林漁業)(50.0%)と学生(50.0%)が最も割合が高く、次いで無職(46.0%)となっている。「男女平等になっている」については、自営業(商工サービス業)(37.2%)が最も割合が高く、次いでその他(34.4%)となっている。

【居住年数別】

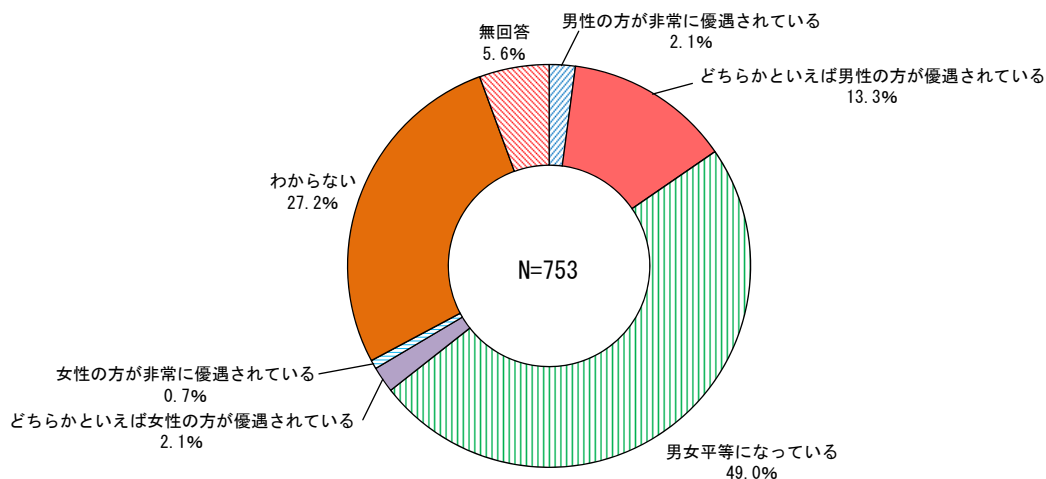
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、20年以上(40.6%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(40.4%)となっている。「男女平等になっている」については、1～5年未満(35.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(27.5%)となっている。

①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ③男女平等になっている ④どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ⑤女性の方が非常に優遇されている ⑥わからない ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



(3) 学校教育の場で



【全体】

「男女平等になっている」(49.0%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「わからない」(27.2%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(13.3%)の順となっている。

【圏域別】

「男女平等になっている」については、十勝圏(65.1%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(61.4%)となっている。「わからない」については、道南圏(30.0%)が最も割合が高く、次いで道央圏(29.1%)となっている。

【人口規模別】

「男女平等になっている」については、人口10万人以上の都市(51.8%)が最も割合が高く、次いで町村部(51.6%)となっている。「わからない」については、人口10万人未満の都市(30.3%)が最も割合が高く、次いで札幌市(28.0%)となっている。

【性別】

「男女平等になっている」については、男性48.3%、女性49.6%となっており、「わからない」については、男性28.1%、女性26.7%となっている。

【年代別】

「男女平等になっている」については、20～29歳(55.3%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(53.1%)となっている。「わからない」については、70歳以上(33.3%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(31.5%)となっている。

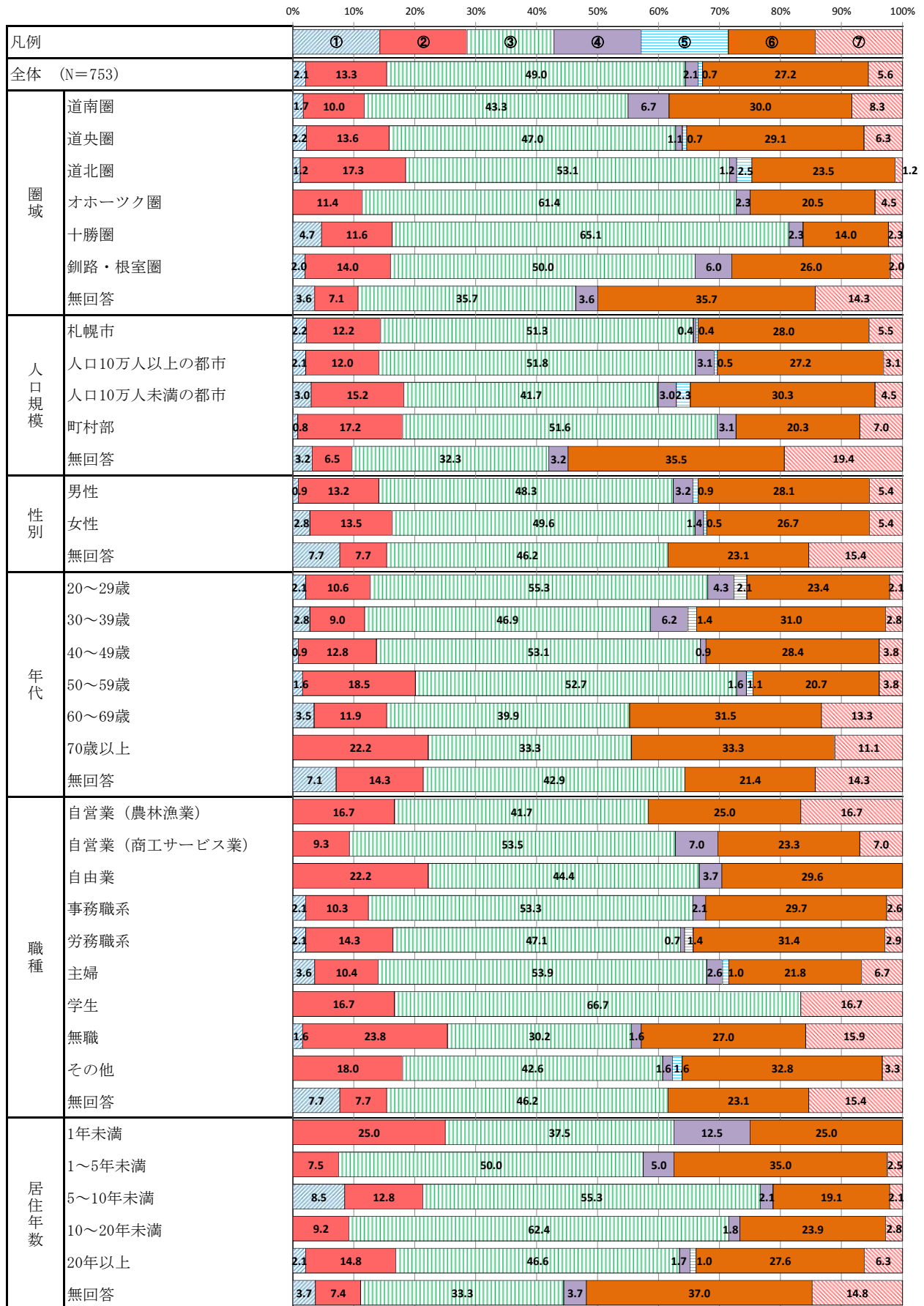
【職種別】

「男女平等になっている」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いで主婦(53.9%)となっている。「わからない」については、その他(32.8%)が最も割合が高く、次いで労務職系(31.4%)となっている。

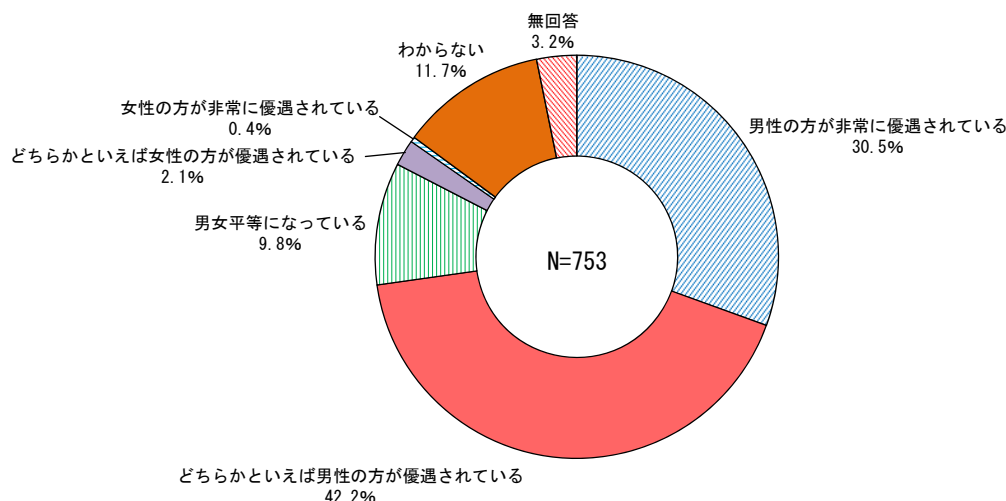
【居住年数別】

「男女平等になっている」については、10～20年未満(62.4%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(55.3%)となっている。「わからない」については、1～5年未満(35.0%)が最も割合が高く、次いで20年以上(27.6%)となっている。

①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ③男女平等になっている ④どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ⑤女性の方が非常に優遇されている ⑥わからない ⑦無回答



(4) 政治の場で



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(42.2%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(30.5%)、「わからない」(11.7%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、道南圏(51.7%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(50.0%)と釧路・根室圏(50.0%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、十勝圏(34.9%)が最も割合が高く、次いで道北圏(34.6%)となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、人口10万人以上の都市(50.3%)が最も割合が高く、次いで町村部(43.0%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、人口10万人未満の都市(37.9%)が最も割合が高く、次いで札幌市(33.2%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、男性42.6%、女性43.0%となっており、「男性の方が非常に優遇されている」については、男性24.9%、女性34.5%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、20～29歳(46.8%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(46.2%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、40～49歳(35.5%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(33.3%)となっている。

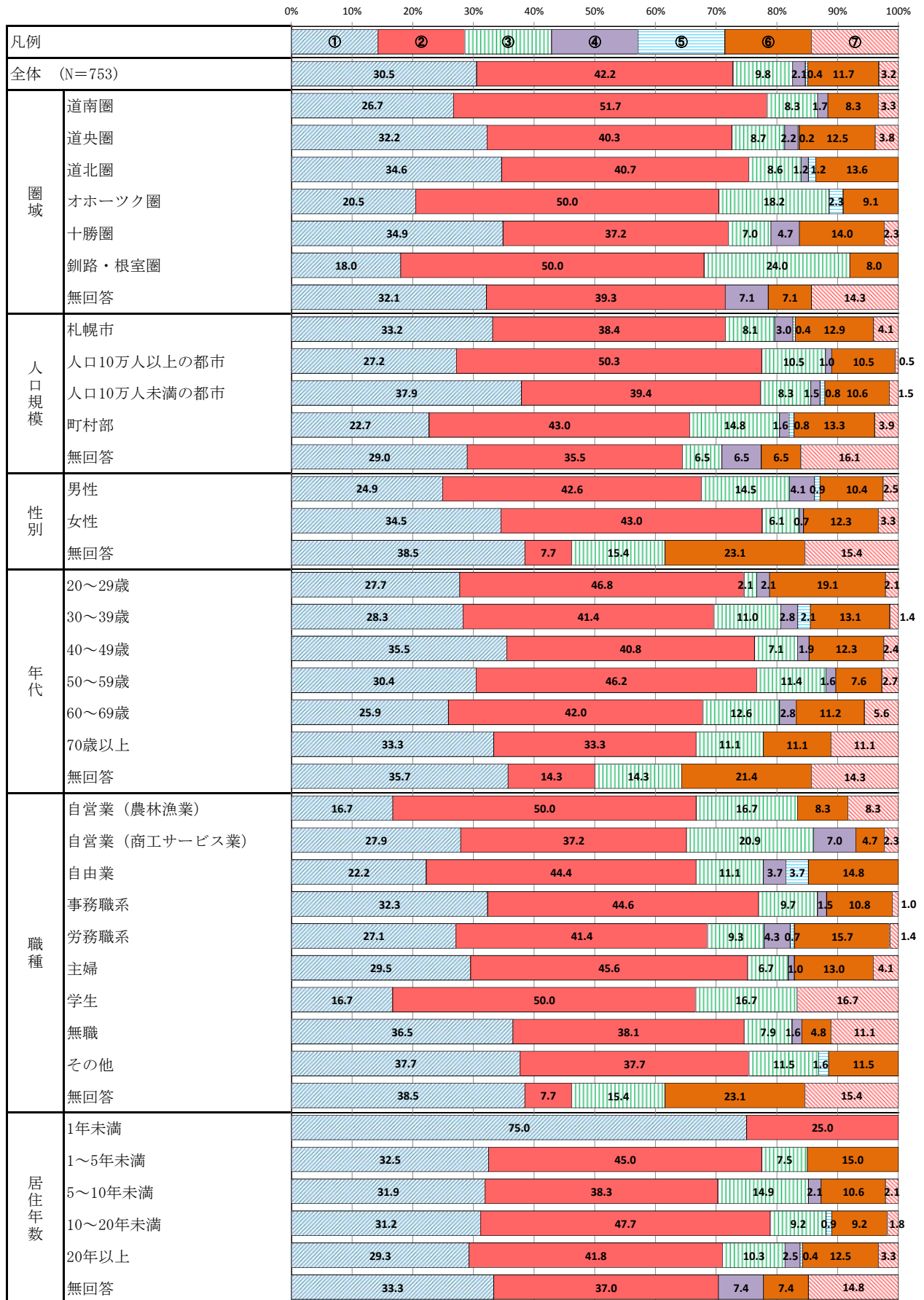
【職種別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、自営業(農林漁業)(50.0%)と学生(50.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(45.6%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、その他(37.7%)が最も割合が高く、次いで無職(36.5%)となっている。

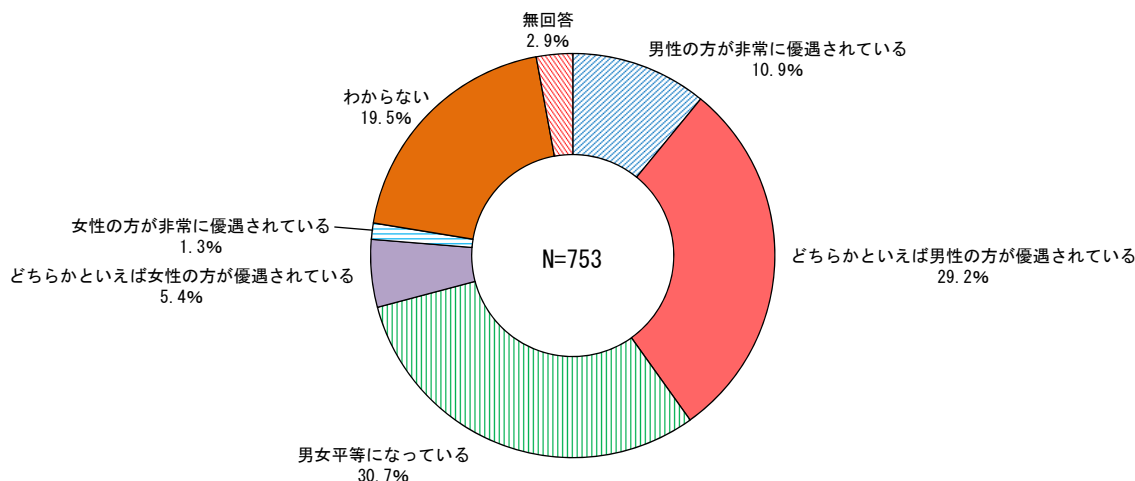
【居住年数別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、10～20年未満(47.7%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(45.0%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、1年未満(75.0%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(32.5%)となっている。

①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ③男女平等になっている ④どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ⑤女性の方が非常に優遇されている ⑥わからない ⑦無回答



(5) 法律や制度の上で



【全体】

「男女平等になっている」(30.7%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(29.2%)、「わからない」(19.5%)の順となっている。

【圏域別】

「男女平等になっている」については、十勝圏(44.2%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(43.2%)となっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、釧路・根室圏(42.0%)が最も割合が高く、次いで十勝圏(32.6%)となっている。

【人口規模別】

「男女平等になっている」については、町村部(33.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(31.4%)となっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、町村部(32.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(31.9%)となっている。

【性別】

「男女平等になっている」については、男性39.1%、女性24.3%となっており、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、男性24.3%、女性33.3%となっている。

【年代別】

「男女平等になっている」については、70歳以上(44.4%)が最も割合が高く、次いで20～29歳(38.3%)となっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、50～59歳(35.9%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(35.5%)となっている。

【職種別】

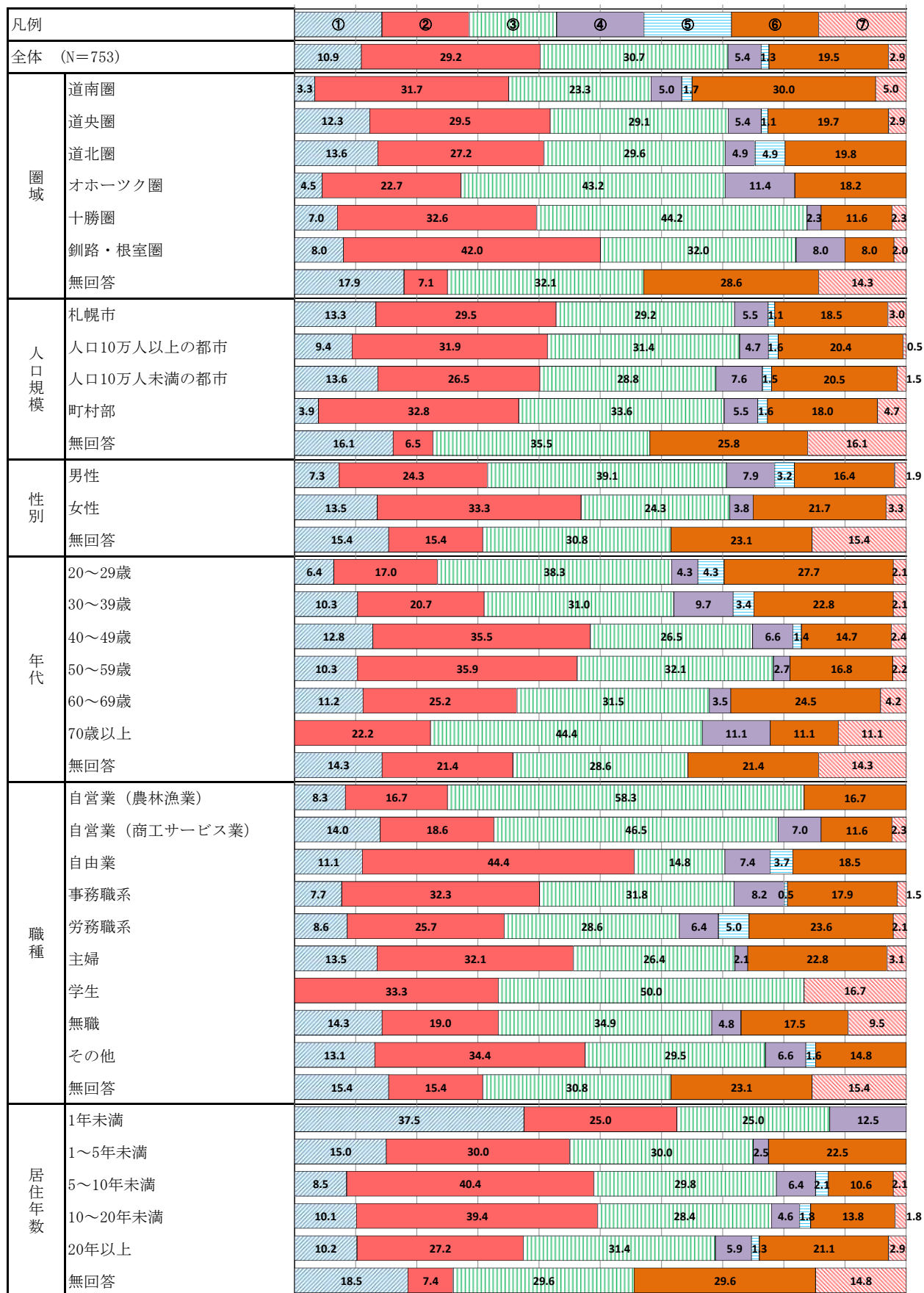
「男女平等になっている」については、自営業(農林漁業)(58.3%)が最も割合が高く、次いで学生(50.0%)となっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、自由業(44.4%)が最も割合が高く、次いでその他(34.4%)となっている。

【居住年数別】

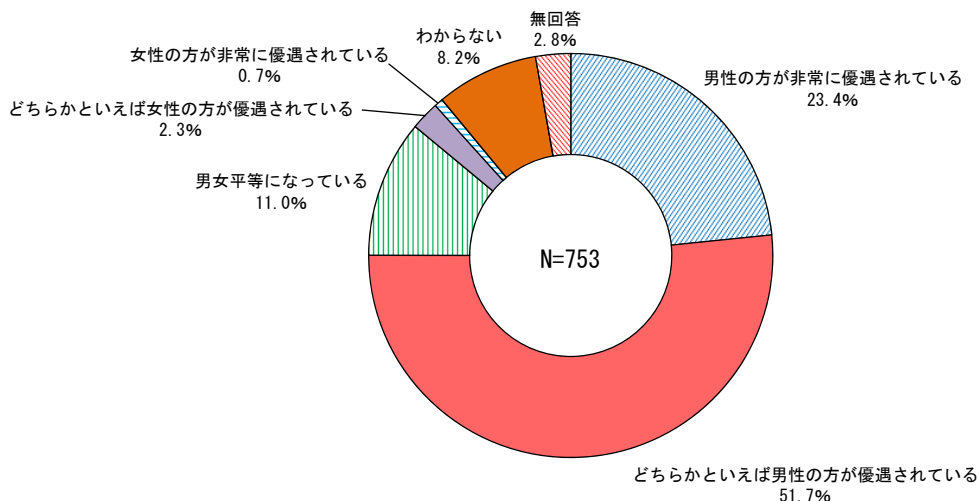
「男女平等になっている」については、20年以上(31.4%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(30.0%)となっている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、5～10年未満(40.4%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(39.4%)となっている。

①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ③男女平等になっている ④どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ⑤女性の方が非常に優遇されている ⑥わからない ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



(6) 社会通念・慣習・しきたりなどで



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(51.7%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(23.4%)、「男女平等になっている」(11.0%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、オホーツク圏(59.1%)が最も割合が高く、次いで道南圏(56.7%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、道北圏(27.2%)が最も割合が高く、次いで道央圏(25.1%)となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、人口10万人以上の都市(56.5%)が最も割合が高く、次いで町村部(53.9%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、札幌市(26.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(25.8%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、男性52.1%、女性51.3%となっており、「男性の方が非常に優遇されている」については、男性18.0%、女性27.7%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、60～69歳(58.7%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(54.3%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、40～49歳(30.3%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(23.9%)となっている。

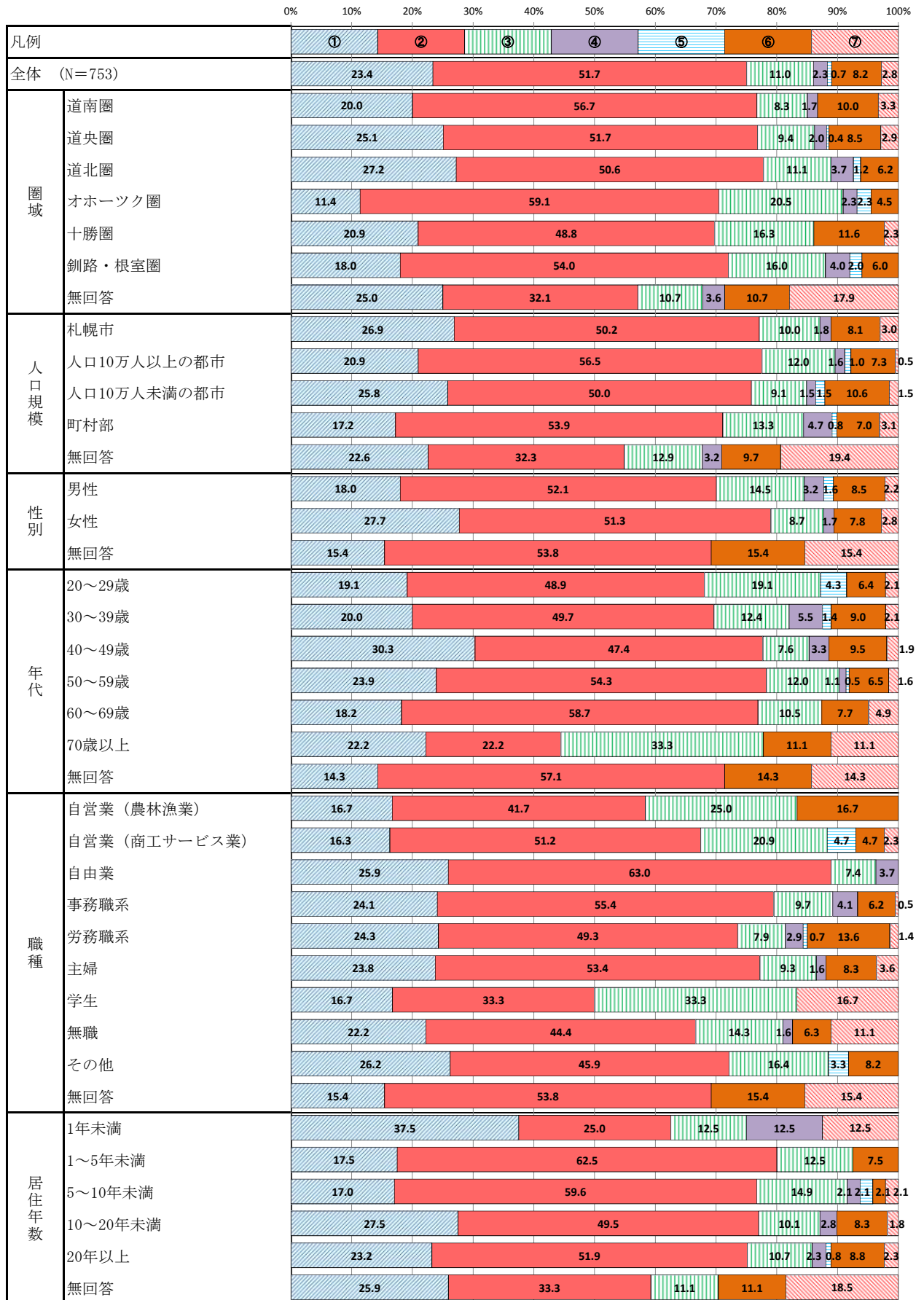
【職種別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、自由業(63.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(55.4%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、その他(26.2%)が最も割合が高く、次いで自由業(25.9%)となっている。

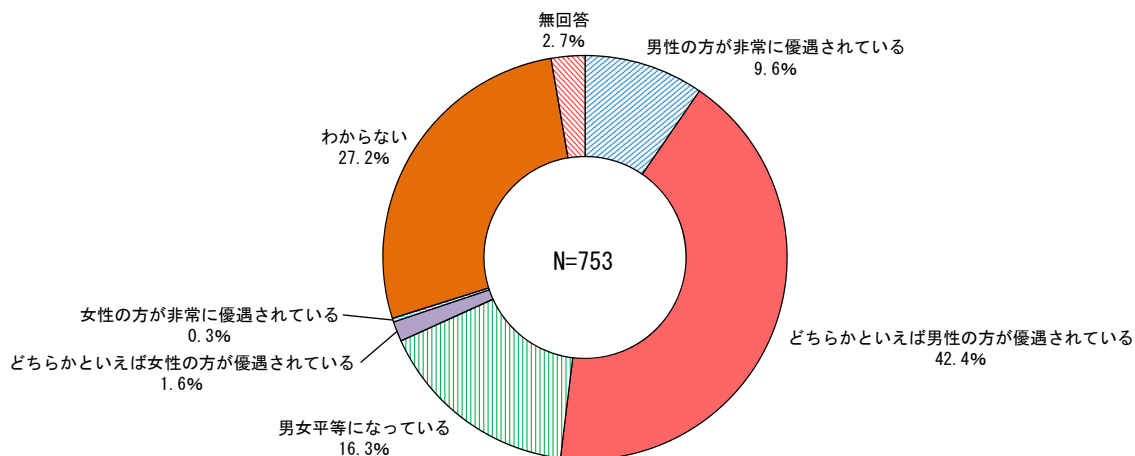
【居住年数別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、1～5年未満(62.5%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(59.6%)となっている。「男性の方が非常に優遇されている」については、1年未満(37.5%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(27.5%)となっている。

①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ③男女平等になっている ④どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ⑤女性の方が非常に優遇されている ⑥わからない ⑦無回答



(7) 北海道全体で



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(42.4%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「わからない」(27.2%)、「男女平等になっている」(16.3%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、道南圏(51.7%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(43.2%)となっている。「わからない」については、道北圏(32.1%)が最も割合が高く、次いで道央圏(28.2%)となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、町村部(46.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(45.0%)となっている。「わからない」については、人口10万人未満の都市(29.5%)が最も割合が高く、次いで札幌市(28.0%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、男性41.6%、女性43.5%となっており、「わからない」については、男性23.7%、女性29.6%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、50～59歳(52.2%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(50.3%)となっている。「わからない」については、20～29歳(40.4%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(37.2%)となっている。

【職種別】

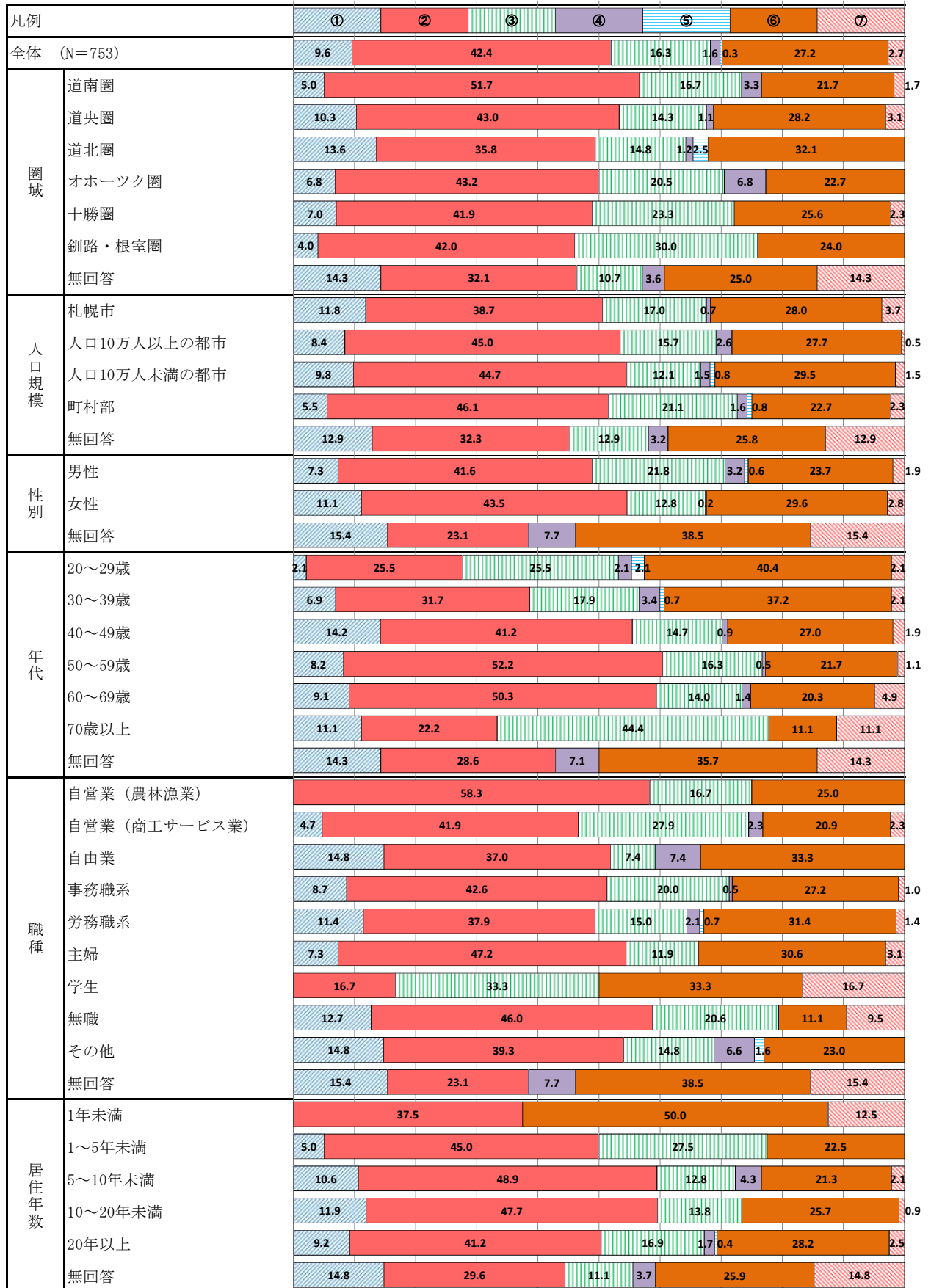
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、自営業(農林漁業)(58.3%)が最も割合が高く、次いで主婦(47.2%)となっている。「わからない」については、自由業(33.3%)と学生(33.3%)が最も割合が高く、次いで労務職系(31.4%)となっている。

【居住年数別】

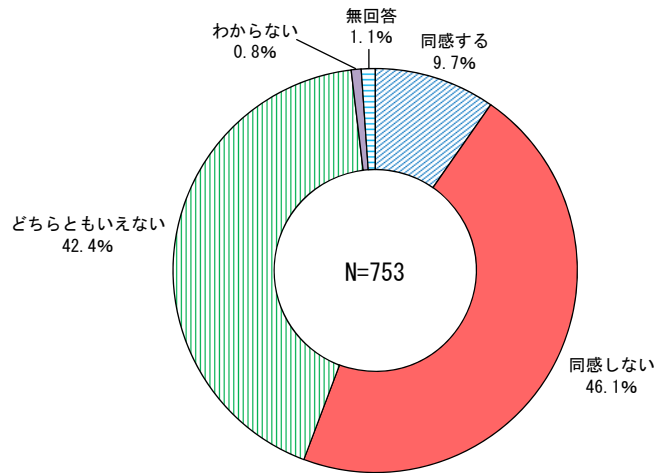
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」については、5～10年未満(48.9%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(47.7%)となっている。「わからない」については、1年未満(50.0%)が最も割合が高く、次いで20年以上(28.2%)となっている。

①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている
 ③男女平等になっている ④どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ⑤女性の方が非常に優遇されている ⑥わからない ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同意しますか、それとも同意しませんか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「同意しない」(46.1%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(42.4%)、「同意する」(9.7%)の順となっている。

【圏域別】

「同意しない」については、道北圏(51.9%)が最も割合が高く、次いで道央圏(47.4%)となっている。「どちらともいえない」については、オホーツク圏(52.3%)が最も割合が高く、次いで十勝圏(51.2%)となっている。

【人口規模別】

「同意しない」については、人口10万人未満の都市(52.3%)が最も割合が高く、次いで札幌市(46.9%)となっている。「どちらともいえない」については、人口10万人以上の都市(45.5%)が最も割合が高く、次いで札幌市(41.7%)となっている。

【性別】

「同意しない」については、男性41.6%、女性49.4%となっており、「どちらともいえない」については、男性43.5%、女性41.8%となっている。

【年代別】

「同意しない」については、20~29歳(59.6%)が最も割合が高く、次いで50~59歳(50.0%)となっている。「どちらともいえない」については、40~49歳(47.9%)が最も割合が高く、次いで30~39歳(44.1%)となっている。

【職種別】

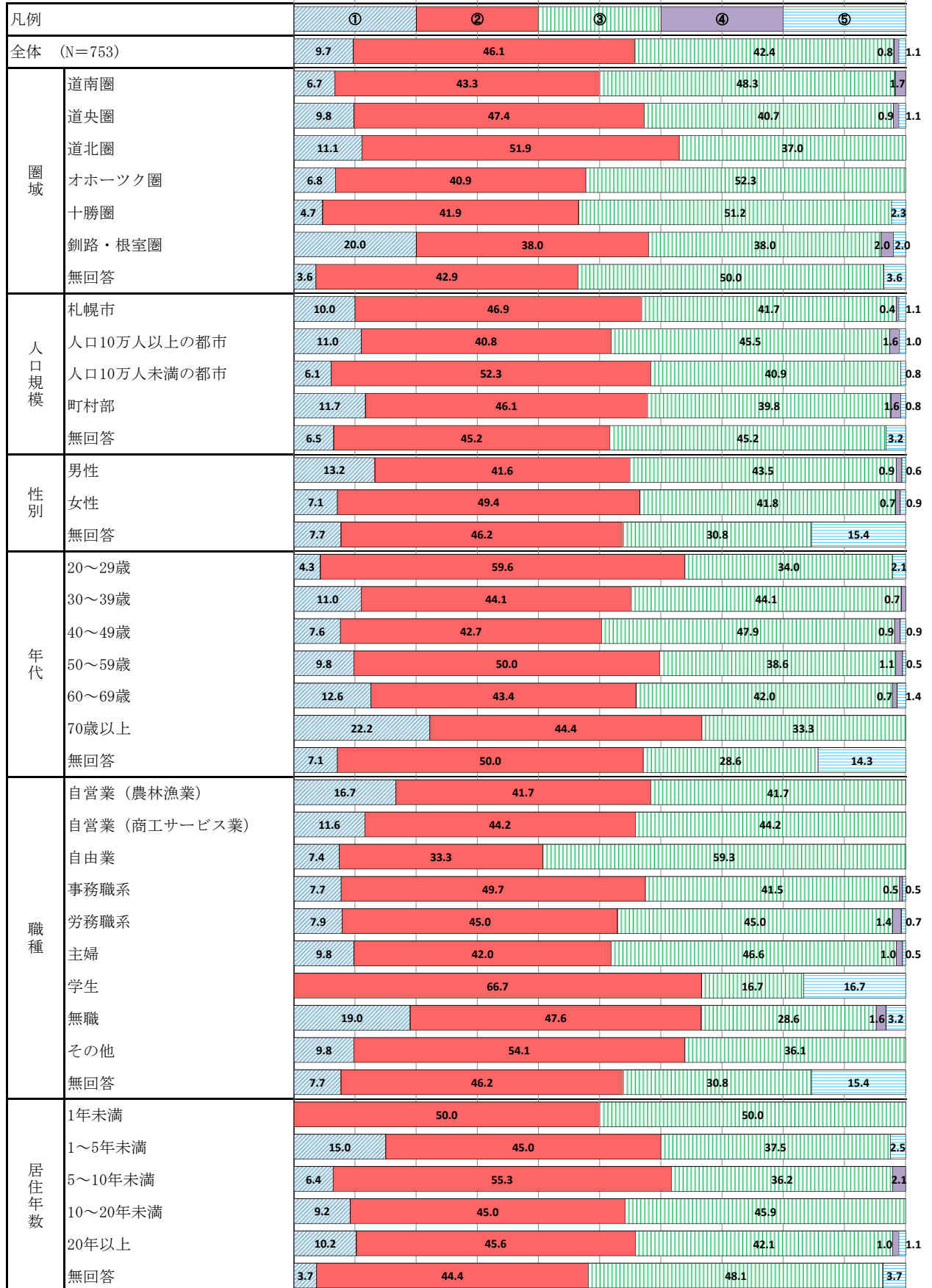
「同意しない」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いでその他(54.1%)となっている。「どちらともいえない」については、自由業(59.3%)が最も割合が高く、次いで主婦(46.6%)となっている。

【居住年数別】

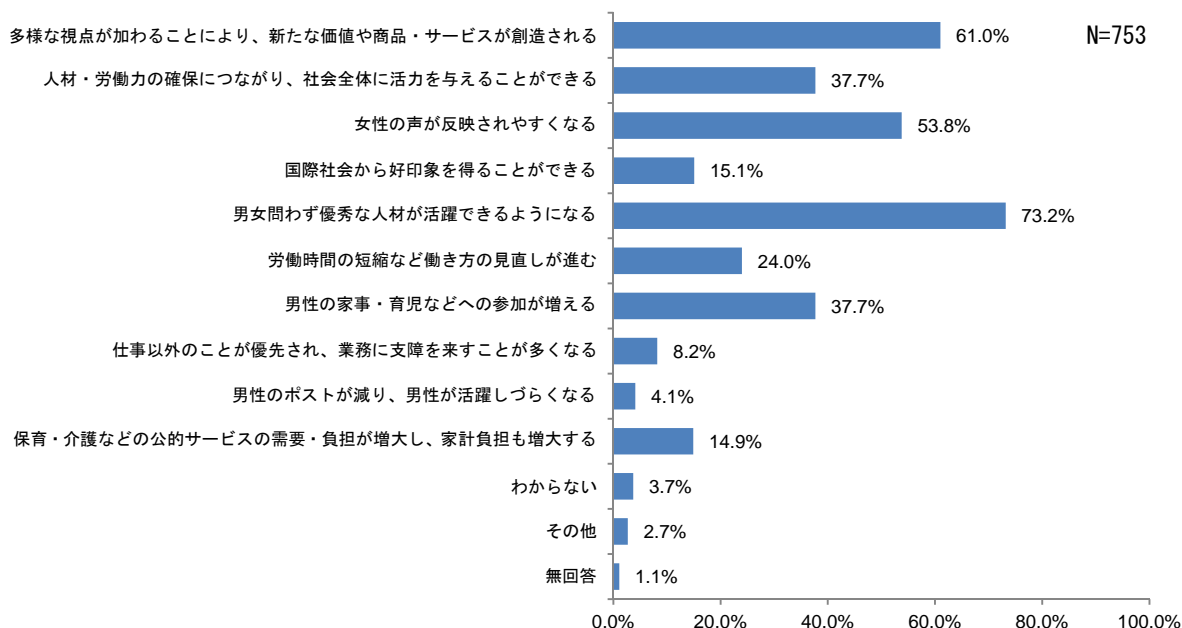
「同意しない」については、5~10年未満(55.3%)が最も割合が高く、次いで1年未満(50.0%)となっている。「どちらともいえない」については、1年未満(50.0%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(45.9%)となっている。

①同感する ②同感しない ③どちらともいえない ④わからない ⑤無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 政治・経済・社会などの分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(73.2%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(61.0%)、「女性の声が反映されやすくなる」(53.8%)の順となっている。

【圏域別】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」については、道北圏(75.3%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(75.0%)となっている。「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」については、道北圏(66.7%)が最も割合が高く、次いで十勝圏(65.1%)となっている。

【人口規模別】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」については、人口10万人以上の都市(77.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(73.4%)となっている。「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」については、人口10万人未満の都市(62.9%)が最も割合が高く、次いで札幌市(62.0%)となっている。

【性別】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」については、男性69.1%、女性77.1%となっており、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」については、男性58.0%、女性63.4%となっている。

【年代別】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」については、50～59歳(78.8%)が最も割合が高く、次いで20～29歳(78.7%)となっている。「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」については、70歳以上(66.7%)が最も割合が高く、次いで20～29歳(63.8%)となっている。

【職種別】

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」については、自由業(85.2%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(79.1%)となっている。「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」については、自由業(66.7%)が最も割合が高く、次いで主婦(65.3%)となっている。

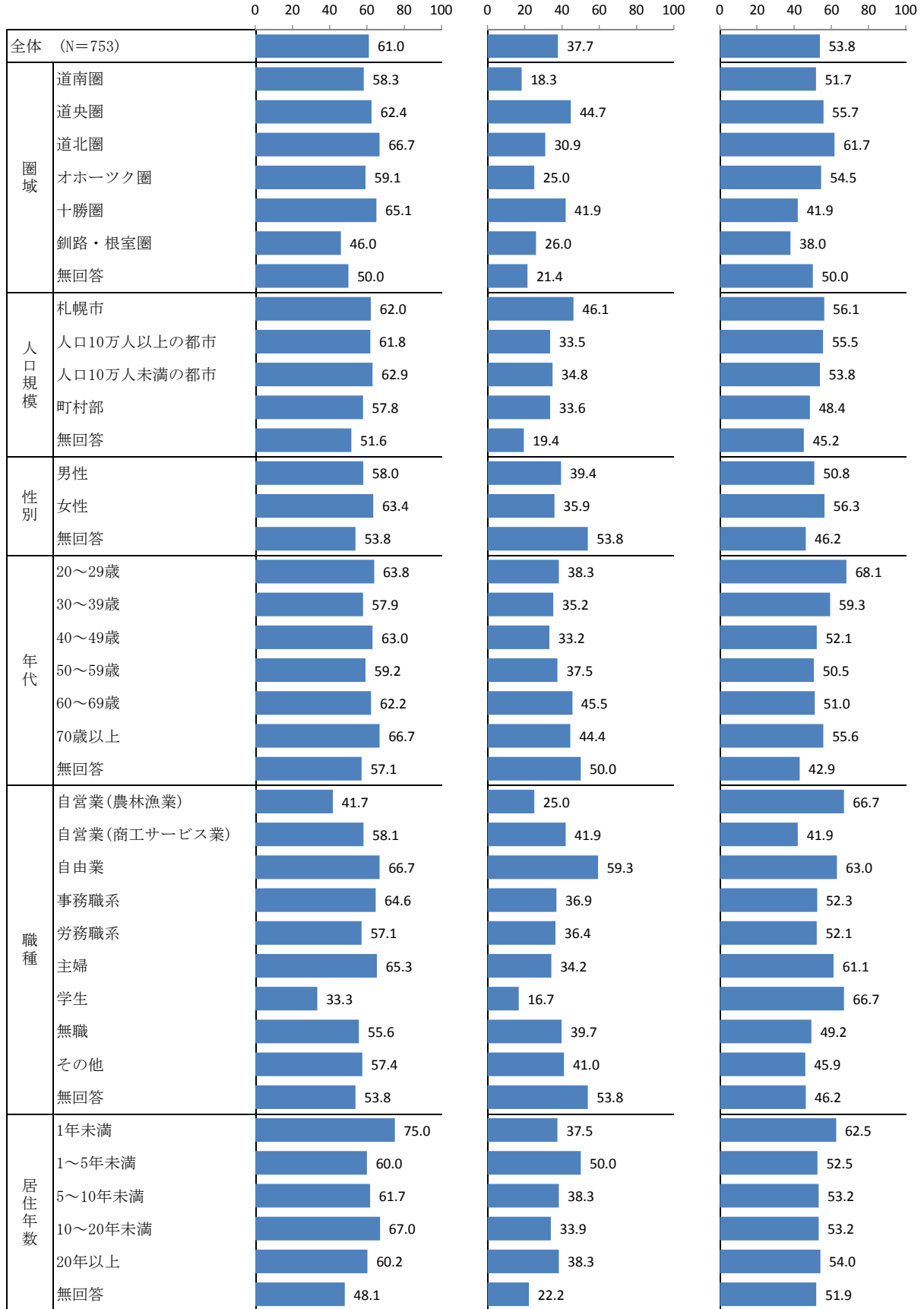
【居住年数別】

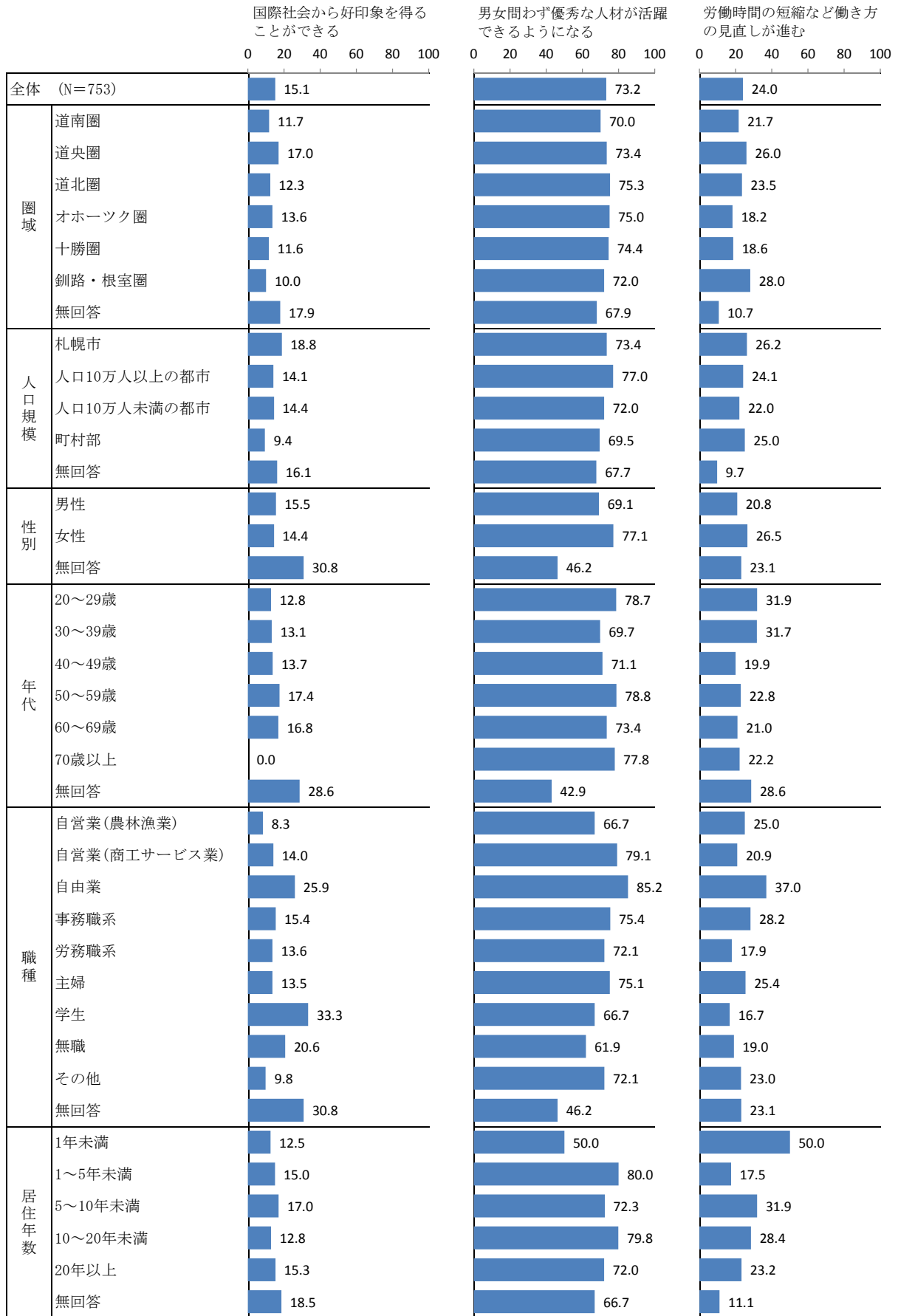
「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」については、1～5年未満（80.0%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（79.8%）となっている。「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」については、1年未満（75.0%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（67.0%）となっている。

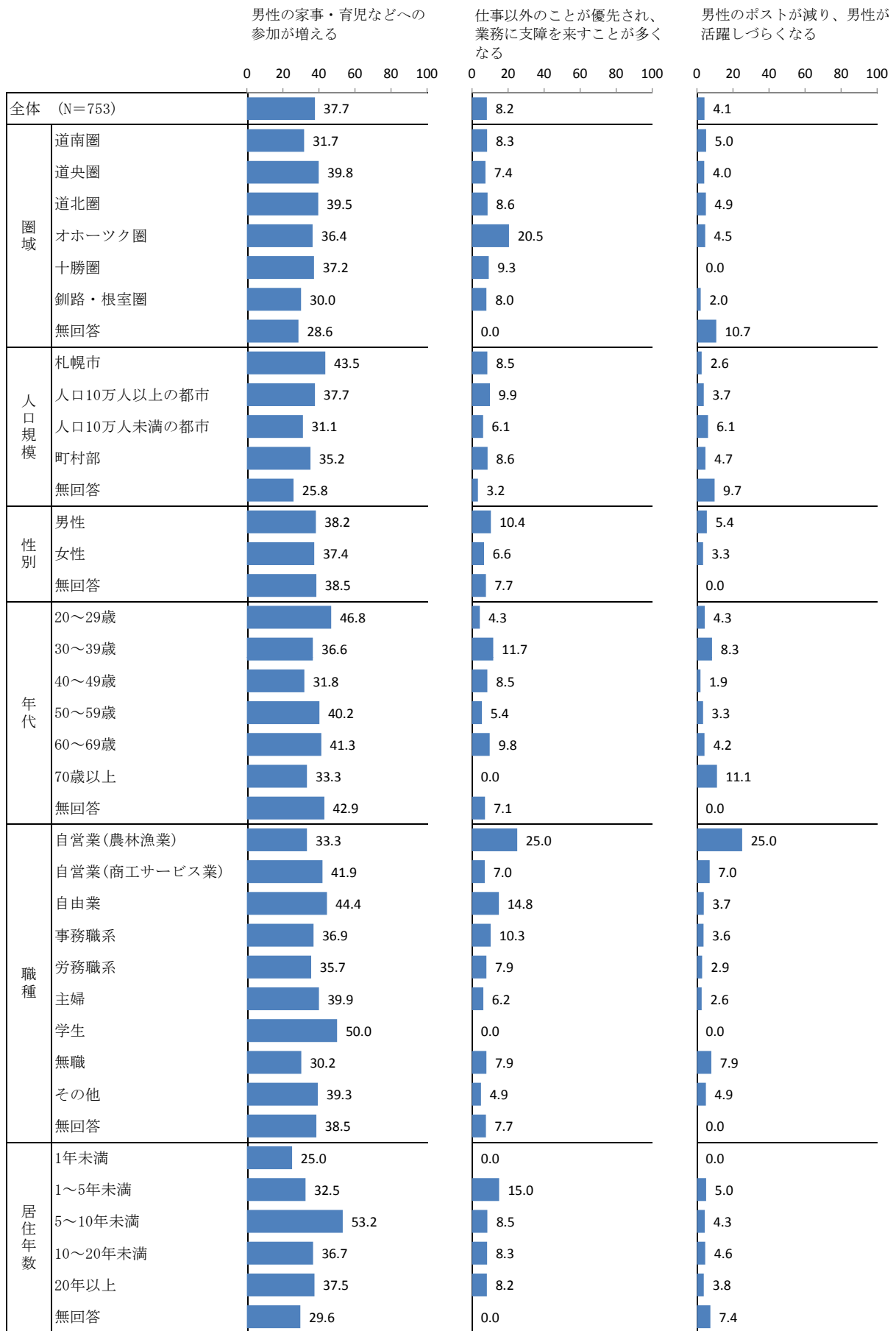
多様な視点が加わることでより
新たな価値や商品・サービスが
創造される

人材・労働力の確保につながり
社会全体に活力を与えることが
できる

女性の声が反映されやすくなる



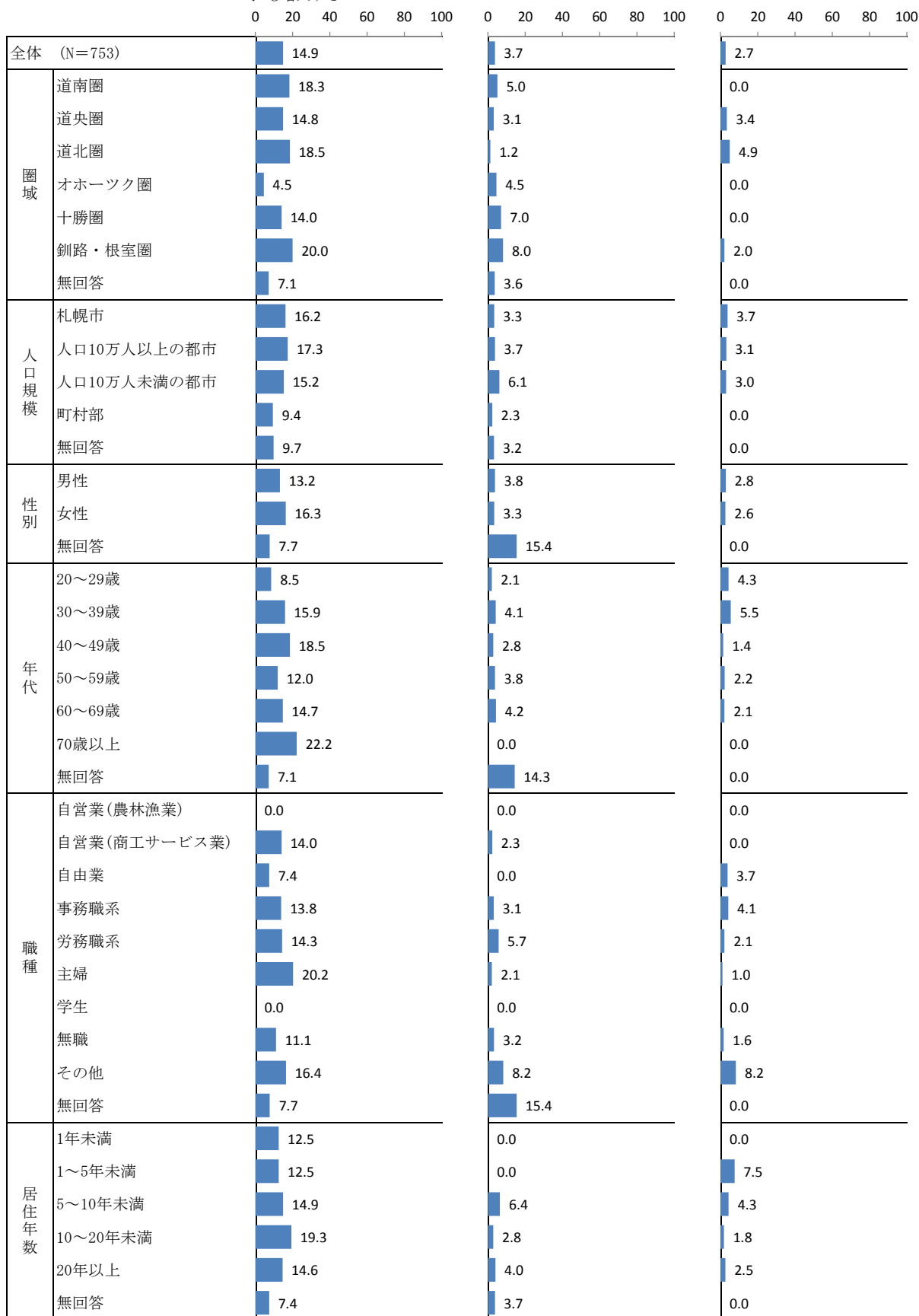




保育・介護などの公的サービスの需要・負担が増大し、家計負担も増大する

わからない

その他

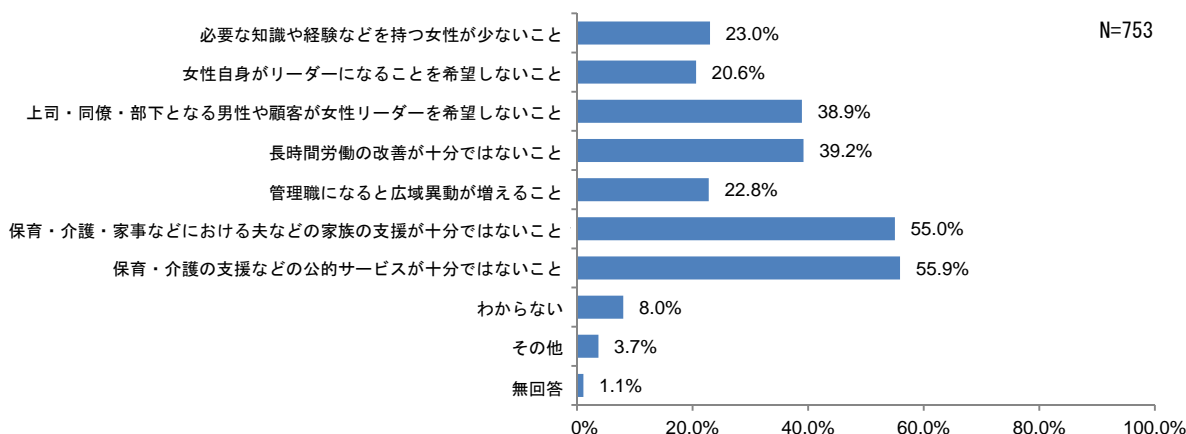


無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=753)		1.1
圏域	道南圏	0.0
	道央圏	1.1
	道北圏	0.0
	オホーツク圏	4.5
	十勝圏	0.0
	釧路・根室圏	0.0
	無回答	3.6
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の都市		0.5
人口10万人未満の都市		0.0
町村部		2.3
無回答		3.2
性別	男性	1.3
	女性	0.5
	無回答	15.4
年代	20～29歳	2.1
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.5
	50～59歳	0.5
	60～69歳	2.1
	70歳以上	0.0
	無回答	14.3
	職種	自営業(農林漁業)
自営業(商工サービス業)		0.0
自由業		0.0
事務職系		0.0
労務職系		0.7
主婦		0.5
学生		16.7
無職		4.8
その他		0.0
無回答		15.4
居住年数		1年未満
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.0
	20年以上	1.3
	無回答	3.7

問4 政治・経済・社会などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」（55.9%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（55.0%）、「長時間労働の改善が十分ではないこと」（39.2%）の順となっている。

【圏域別】

「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」については、道央圏（58.8%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏（56.0%）となっている。「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」については、道北圏（61.7%）が最も割合が高く、次いでオホーツク圏（56.8%）となっている。

【人口規模別】

「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」については、札幌市（60.1%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市（58.3%）となっている。「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」については、人口10万人以上の都市（59.2%）が最も割合が高く、次いで札幌市（57.6%）となっている。

【性別】

「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」については、男性52.1%、女性58.6%となっており、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」については、男性44.8%、女性62.6%となっている。

【年代別】

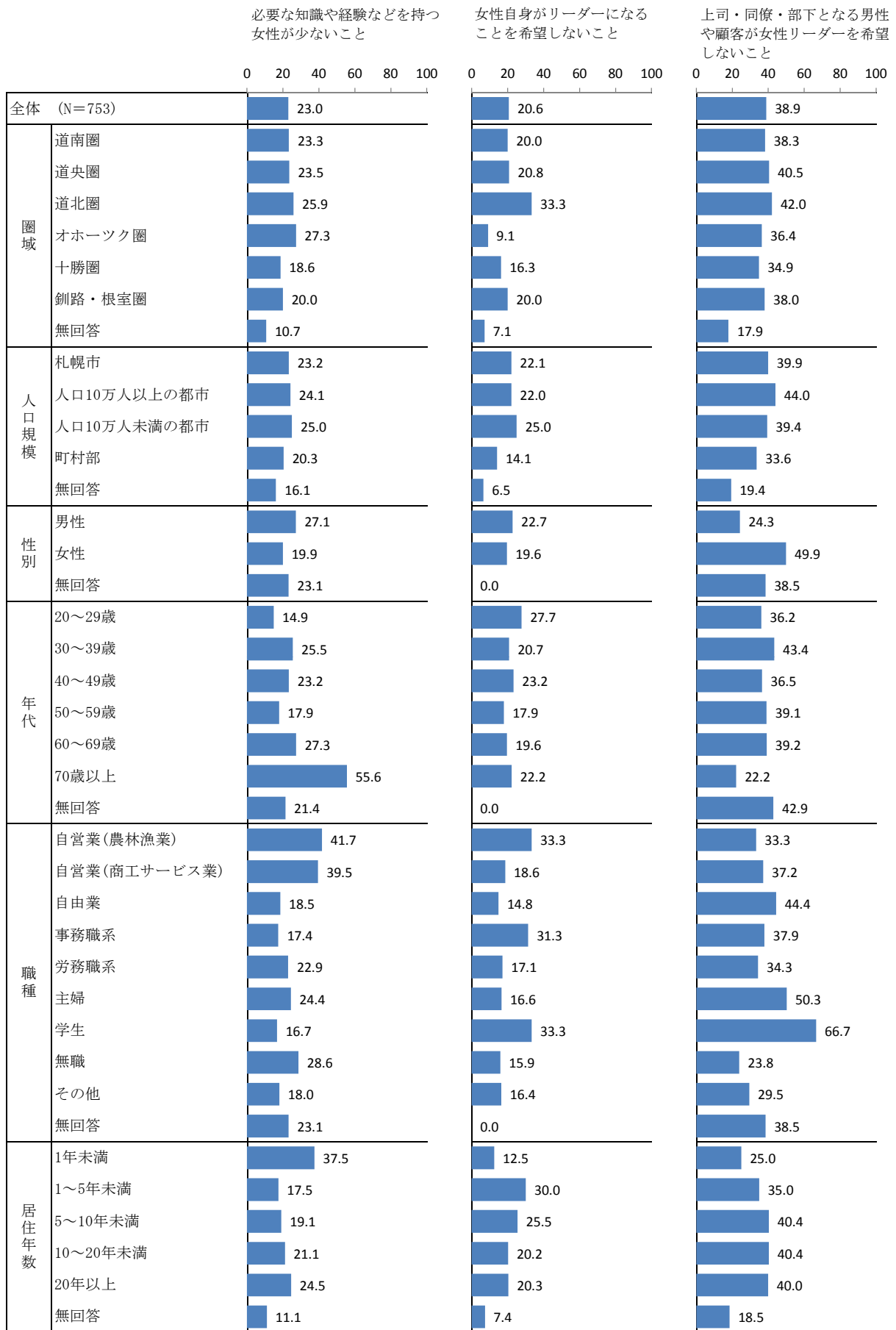
「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」については、70歳以上（66.7%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（58.6%）となっている。「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」については、40～49歳（60.7%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（59.3%）となっている。

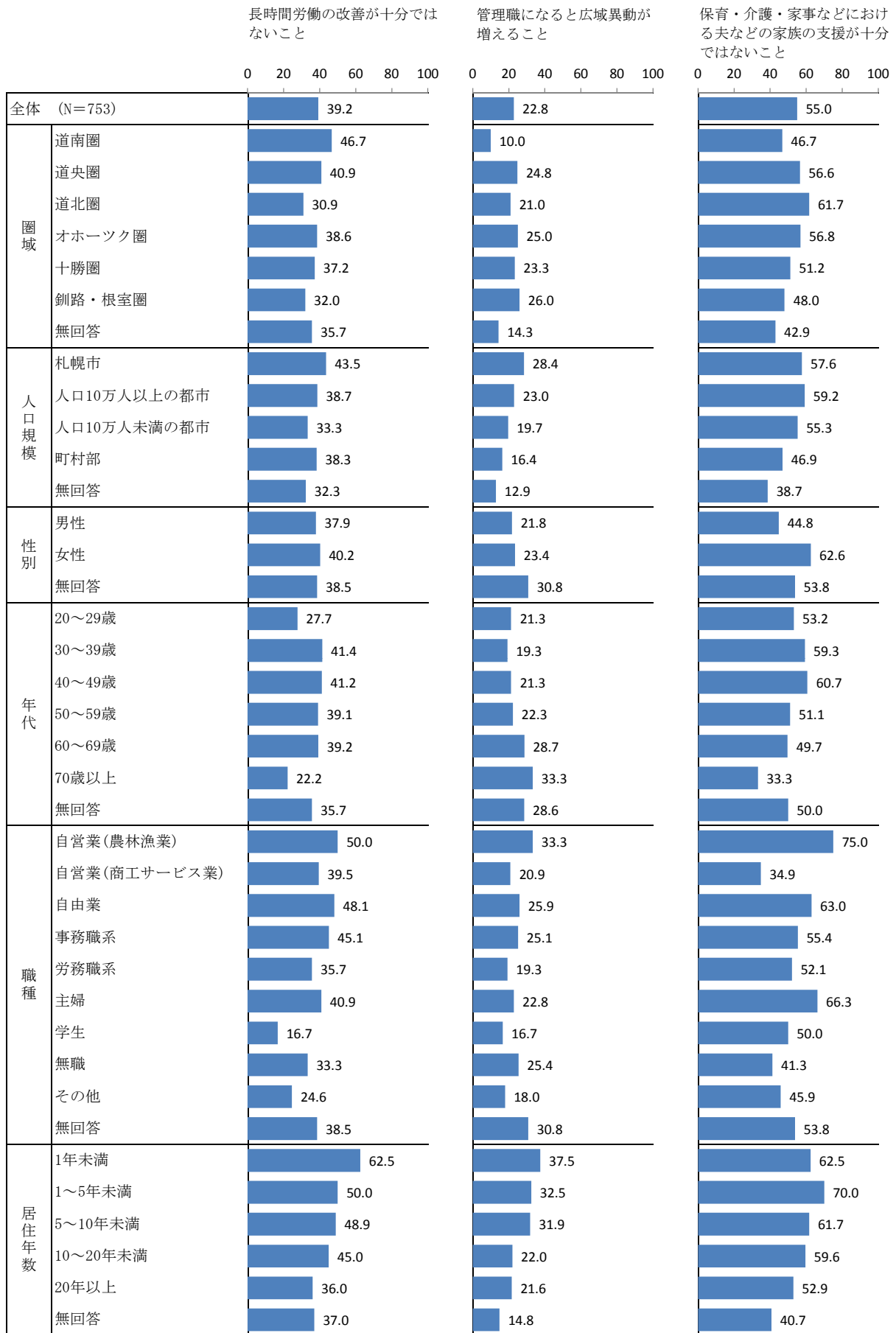
【職種別】

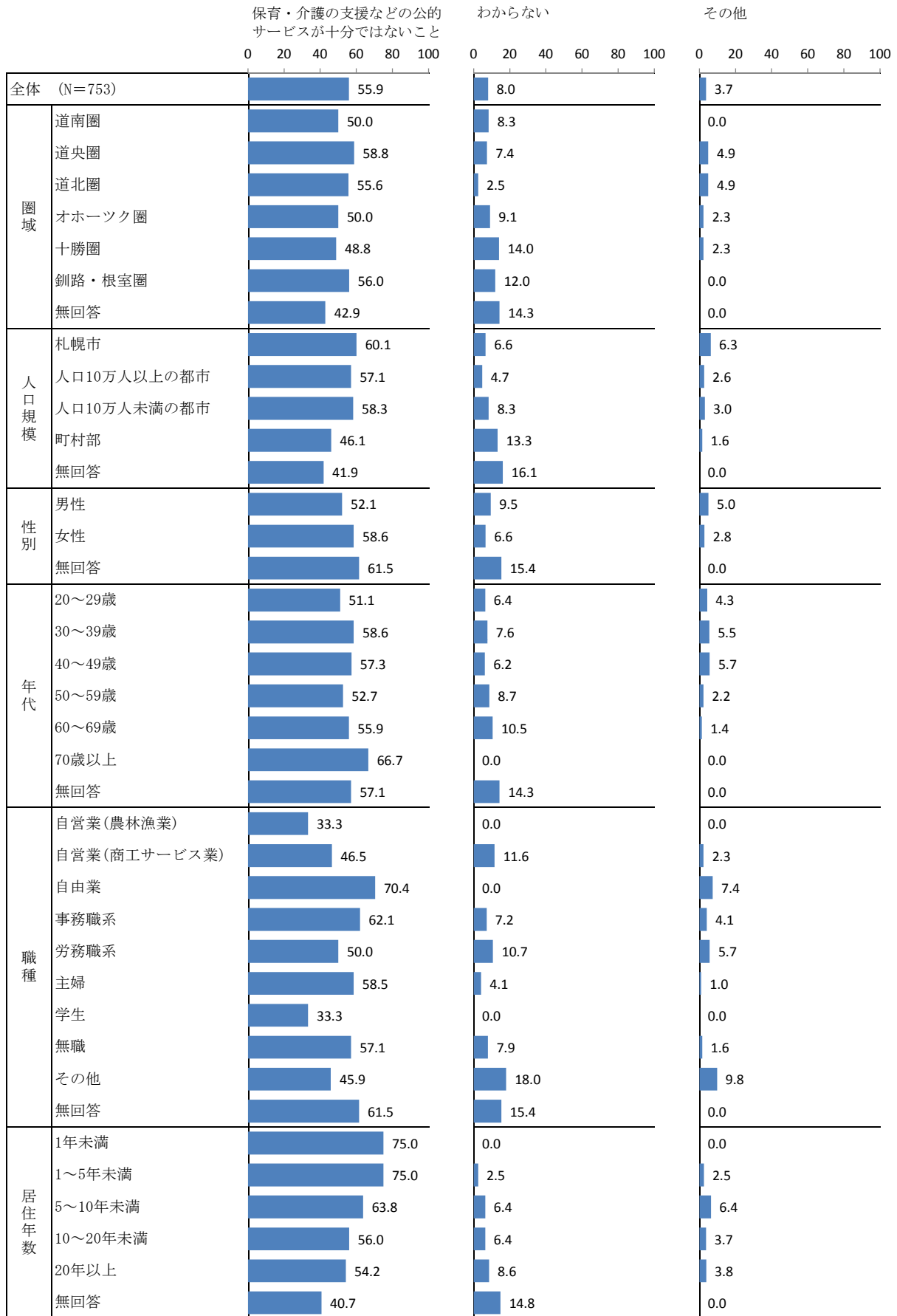
「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」については、自由業（70.4%）が最も割合が高く、次いで事務職系（62.1%）となっている。「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」については、自営業（農林漁業）（75.0%）が最も割合が高く、次いで主婦（66.3%）となっている。

【居住年数別】

「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」については、1年未満（75.0%）と1～5年未満（75.0%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（63.8%）となっている。「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」については、1～5年未満（70.0%）が最も割合が高く、次いで1年未満（62.5%）となっている。





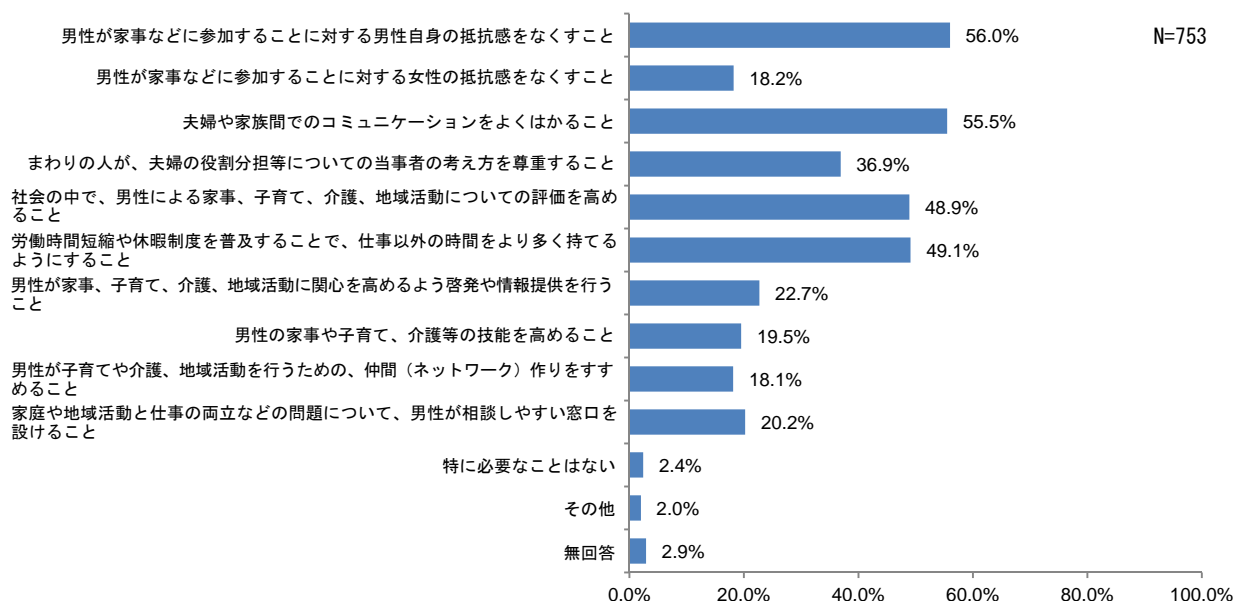


無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=753)		1.1
圏域	道南圏	0.0
	道央圏	1.1
	道北圏	0.0
	オホーツク圏	4.5
	十勝圏	0.0
	釧路・根室圏	0.0
	無回答	3.6
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の都市		0.5
人口10万人未満の都市		0.0
町村部		2.3
無回答		3.2
性別	男性	1.3
	女性	0.5
	無回答	15.4
年代	20～29歳	2.1
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.5
	50～59歳	0.5
	60～69歳	2.1
	70歳以上	0.0
	無回答	14.3
	職種	自営業(農林漁業)
自営業(商工サービス業)		0.0
自由業		0.0
事務職系		0.0
労務職系		0.7
主婦		0.5
学生		16.7
無職		4.8
その他		0.0
無回答		15.4
居住年数		1年未満
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.0
	20年以上	1.3
	無回答	3.7

問5 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（56.0%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（55.5%）、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（49.1%）の順となっている。

【圏域別】

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、道央圏（57.7%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏（56.0%）となっている。「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、オホーツク圏（68.2%）が最も割合が高く、次いで道北圏（58.0%）となっている。

【人口規模別】

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、札幌市（57.9%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市（55.5%）と町村部（55.5%）となっている。「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、人口10万人以上の都市（59.7%）が最も割合が高く、次いで札幌市（55.0%）となっている。

【性別】

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、男性48.9%、女性61.0%となっており、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、男性52.4%、女性57.9%となっている。

【年代別】

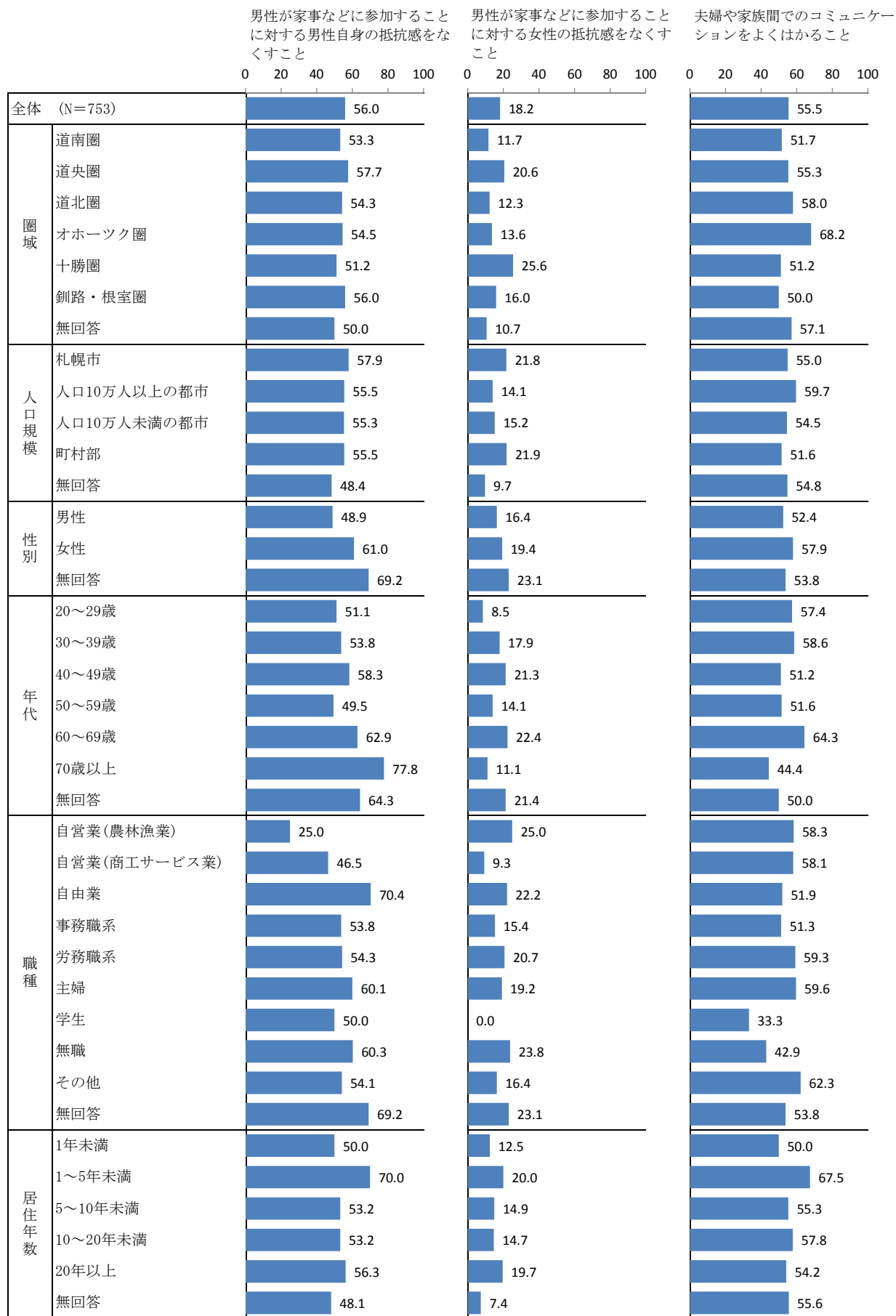
「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、70歳以上（77.8%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（62.9%）となっている。「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、60～69歳（64.3%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（58.6%）となっている。

【職種別】

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、自由業（70.4%）が最も割合が高く、次いで無職（60.3%）となっている。「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、その他（62.3%）が最も割合が高く、次いで主婦（59.6%）となっている。

【居住年数別】

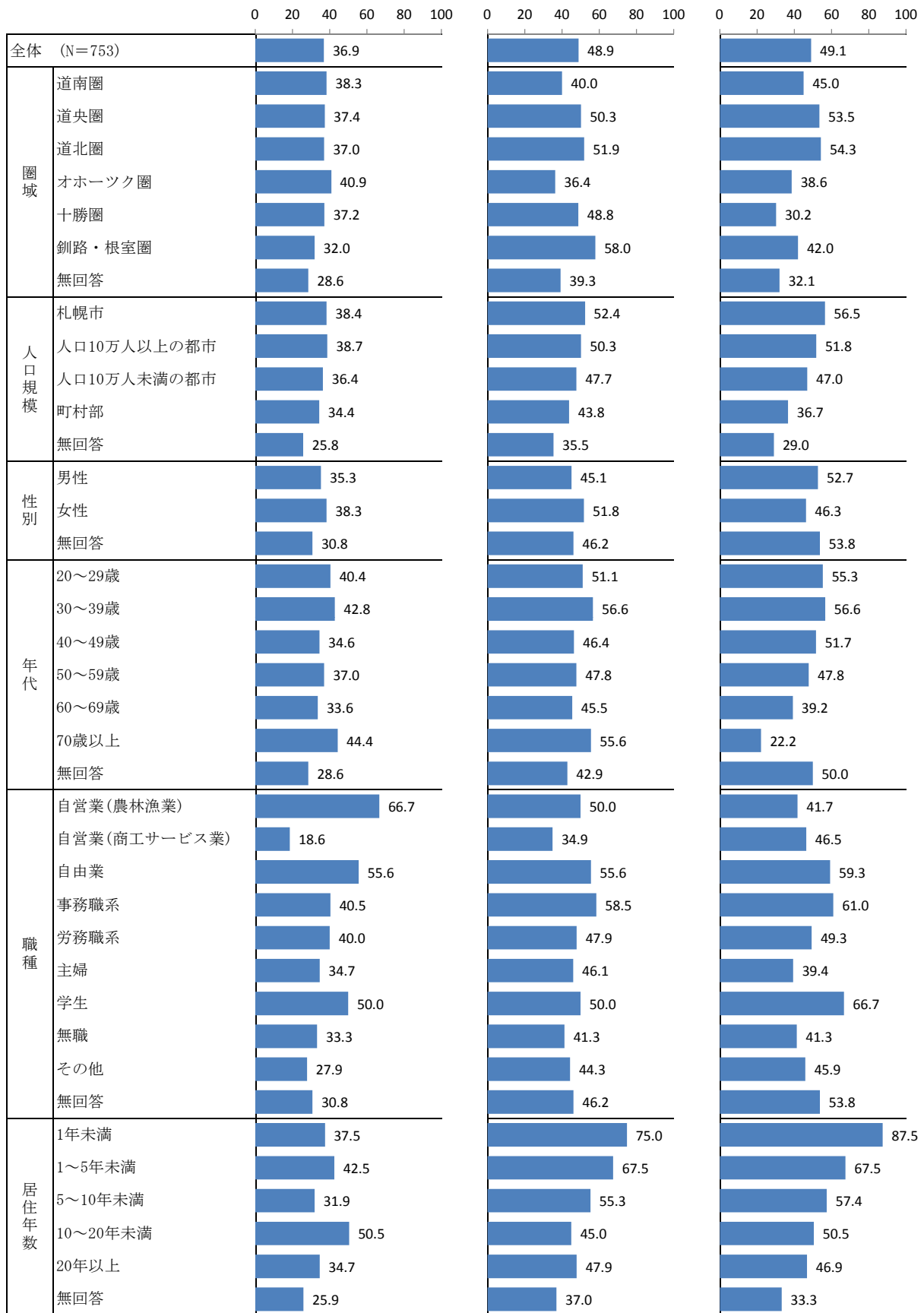
「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、1～5年未満（70.0%）が最も割合が高く、次いで20年以上（56.3%）となっている。「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、1～5年未満（67.5%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（57.8%）となっている。



まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること

社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること

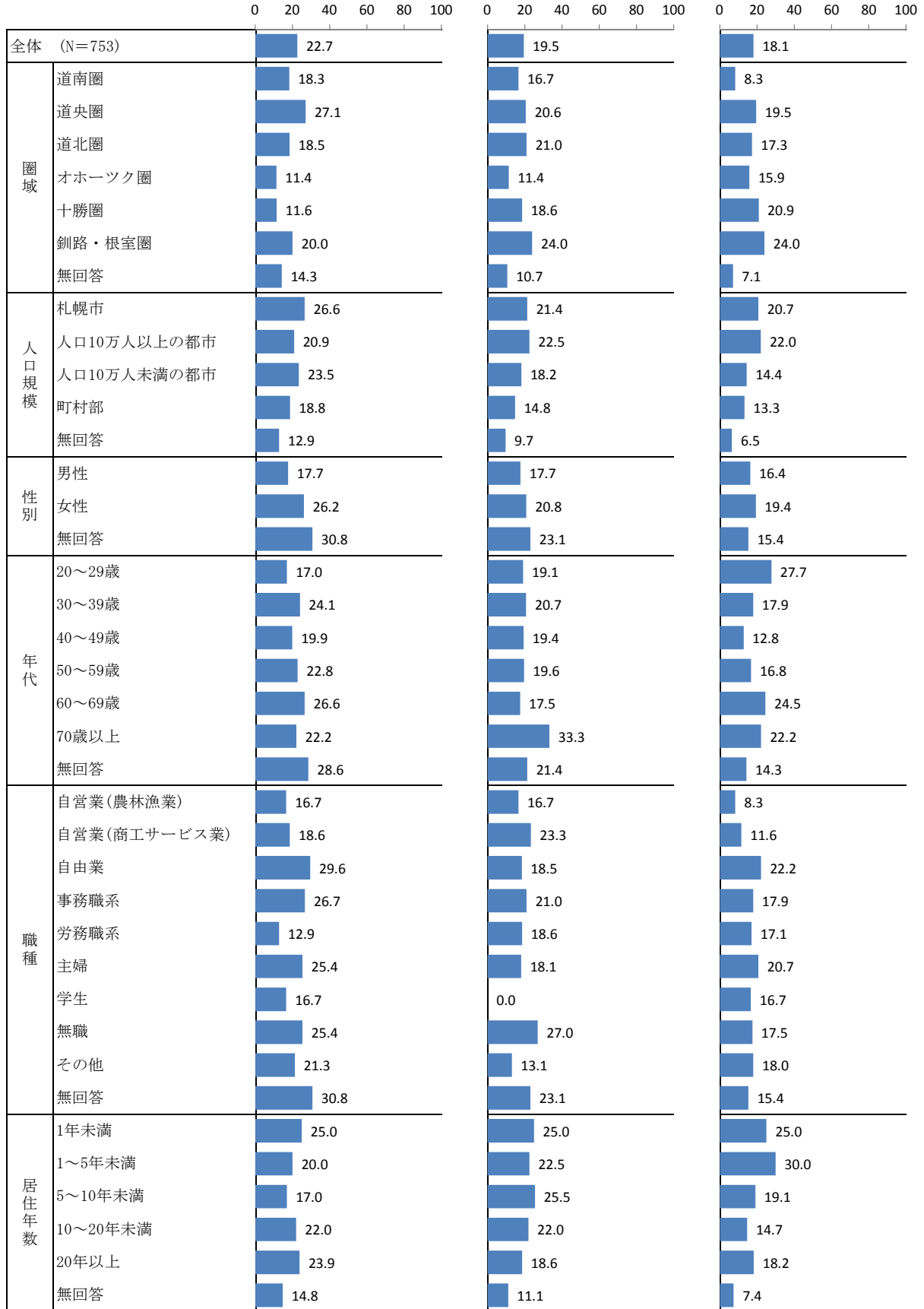
労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること



男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと

男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること

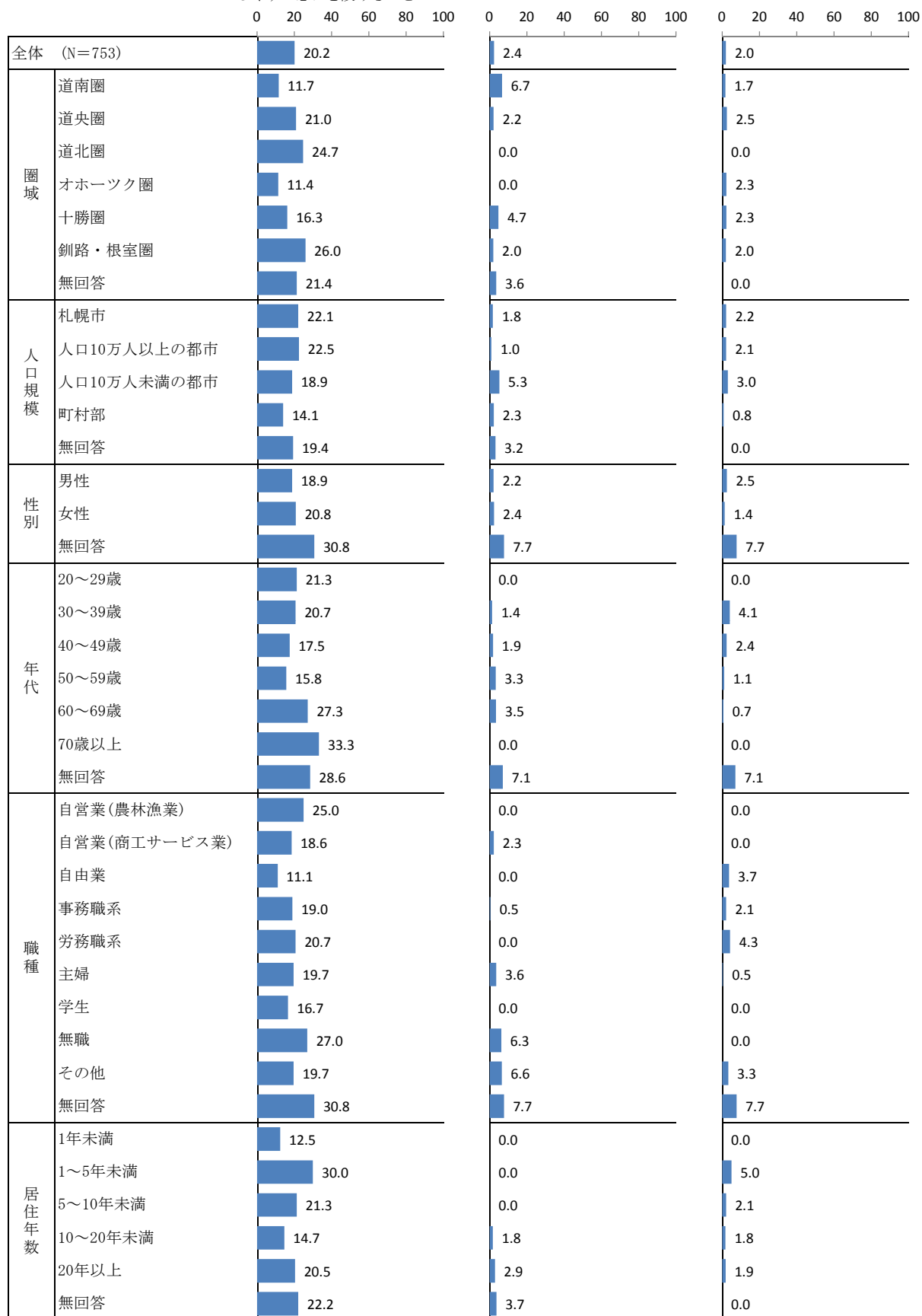
男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること



家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること

特に必要なことはない

その他

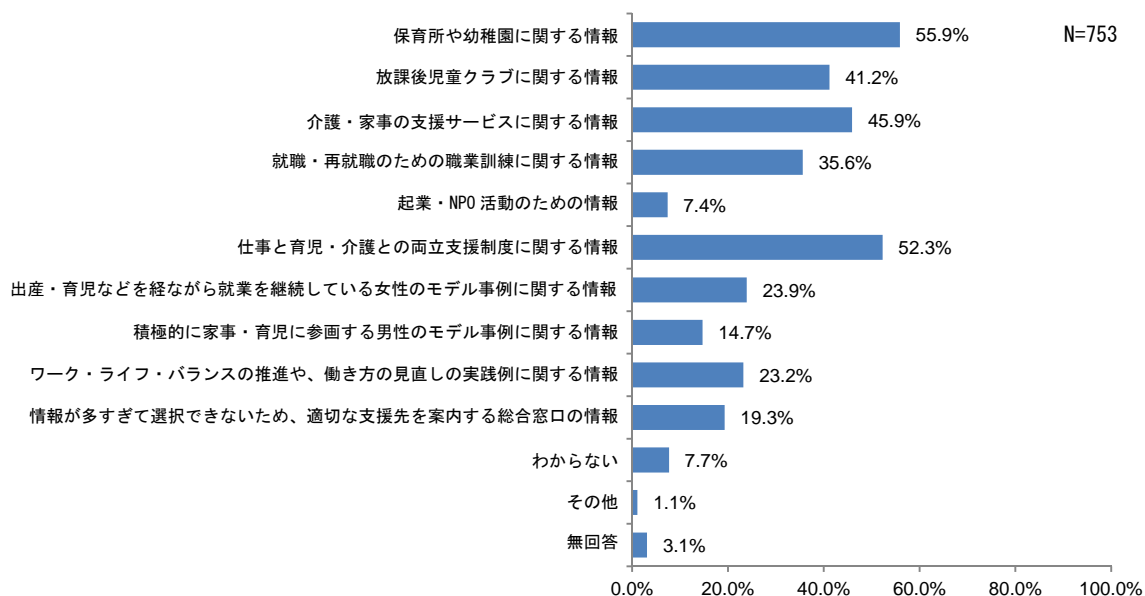


無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=753)		2.9
圏域	道南圏	5.0
	道央圏	2.5
	道北圏	1.2
	オホーツク圏	9.1
	十勝圏	2.3
	釧路・根室圏	2.0
	無回答	3.6
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の都市		3.1
人口10万人未満の都市		3.8
町村部		2.3
無回答		6.5
性別	男性	2.5
	女性	2.8
	無回答	15.4
年代	20～29歳	2.1
	30～39歳	0.7
	40～49歳	3.8
	50～59歳	2.2
	60～69歳	2.8
	70歳以上	11.1
	無回答	21.4
職種	自営業(農林漁業)	0.0
	自営業(商工サービス業)	4.7
	自由業	0.0
	事務職系	3.1
	労務職系	2.9
	主婦	3.1
	学生	0.0
	無職	3.2
	その他	0.0
	無回答	15.4
居住年数	1年未満	0.0
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	4.3
	10～20年未満	0.9
	20年以上	3.4
	無回答	3.7

問6 女性の活躍推進の取組に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「保育所や幼稚園に関する情報」（55.9%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」（52.3%）、「介護・家事の支援サービスに関する情報」（45.9%）の順となっている。

【圏域別】

「保育所や幼稚園に関する情報」については、道北圏（64.2%）が最も割合が高く、次いで道央圏（58.4%）となっている。「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」については、道央圏（55.5%）が最も割合が高く、次いでオホーツク圏（54.5%）となっている。

【人口規模別】

「保育所や幼稚園に関する情報」については、札幌市（60.1%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市（58.3%）となっている。「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」については、人口10万人以上の都市（56.5%）が最も割合が高く、次いで札幌市（55.4%）となっている。

【性別】

「保育所や幼稚園に関する情報」については、男性55.8%、女性55.8%となっており、「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」については、男性48.9%、女性54.8%となっている。

【年代別】

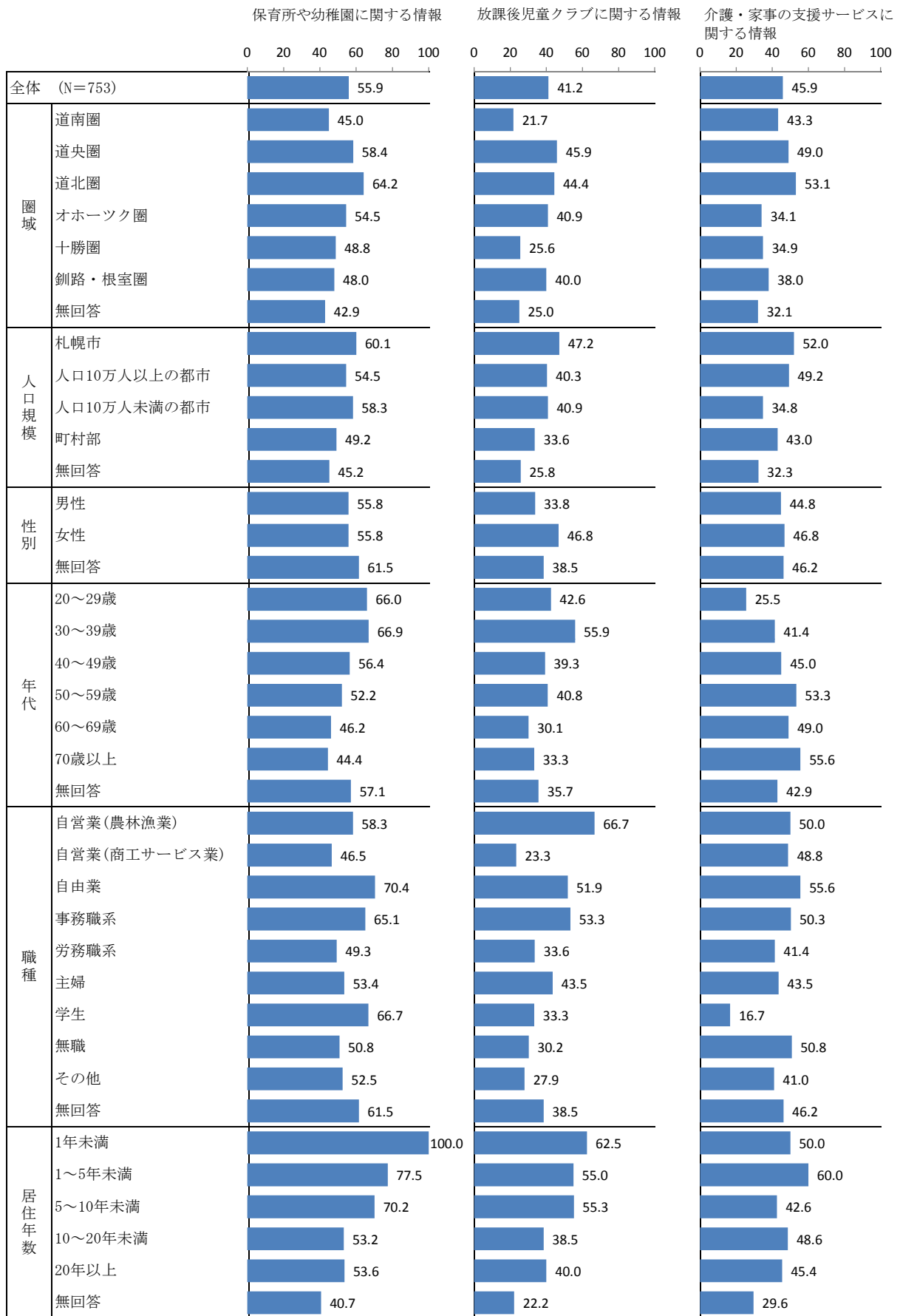
「保育所や幼稚園に関する情報」については、30～39歳（66.9%）が最も割合が高く、次いで20～29歳（66.0%）となっている。「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」については、70歳以上（66.7%）が最も割合が高く、次いで20～29歳（55.3%）となっている。

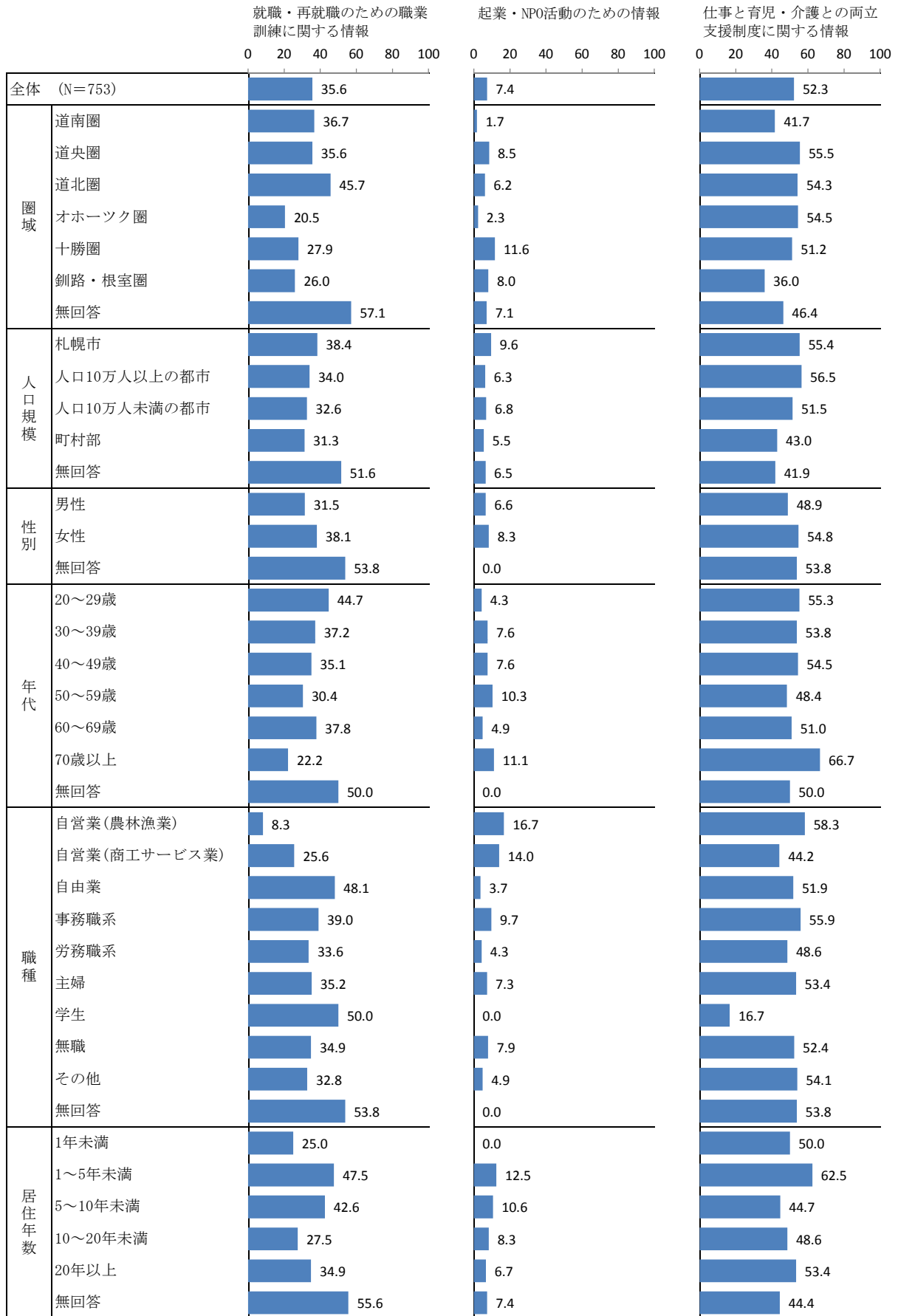
【職種別】

「保育所や幼稚園に関する情報」については、自由業（70.4%）が最も割合が高く、次いで学生（66.7%）となっている。「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」については、自営業（農林漁業）（58.3%）が最も割合が高く、次いで事務職系（55.9%）となっている。

【居住年数別】

「保育所や幼稚園に関する情報」については、1年未満（100.0%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（77.5%）となっている。「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」については、1～5年未満（62.5%）が最も割合が高く、次いで20年以上（53.4%）となっている。

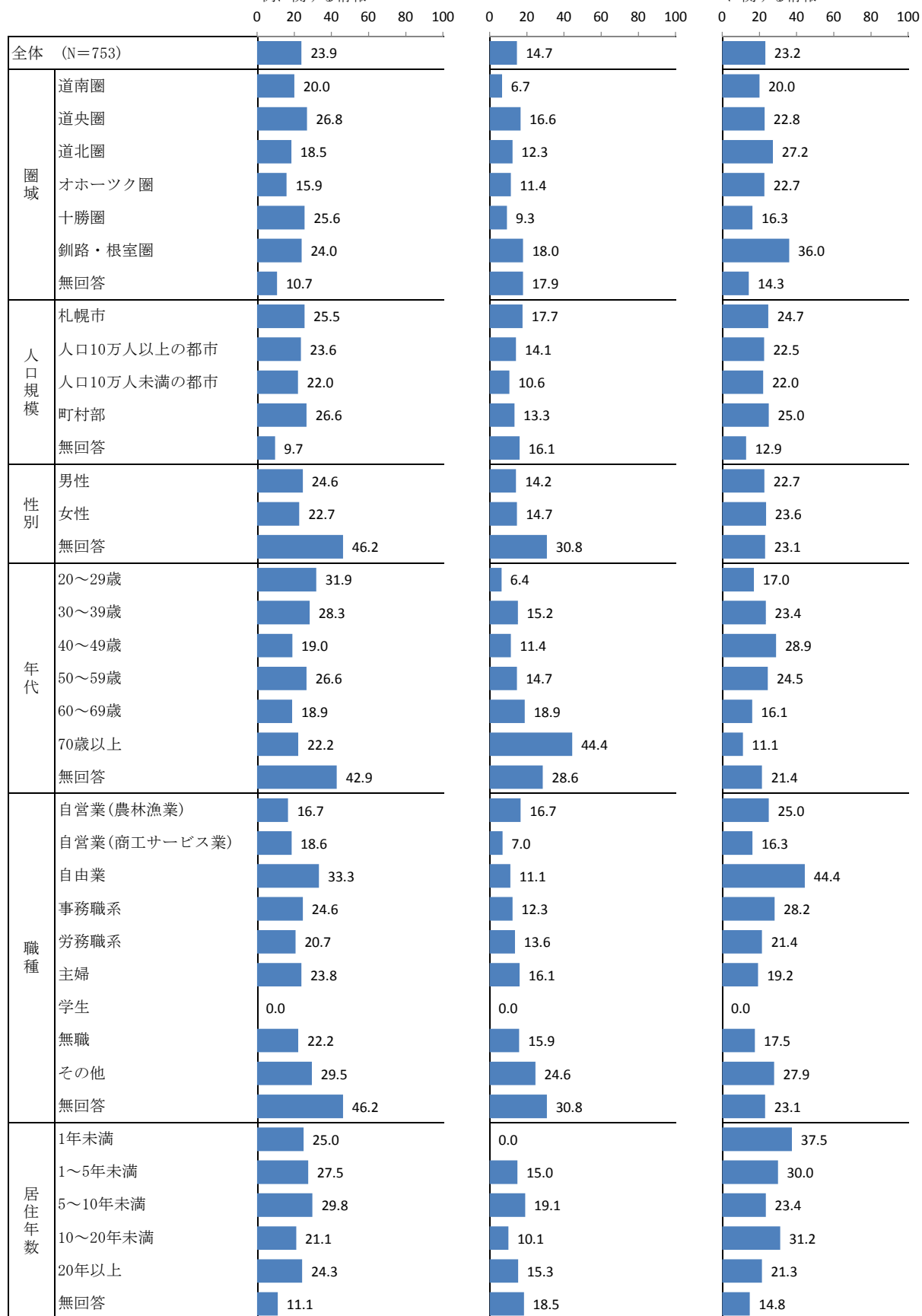




出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報

積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報

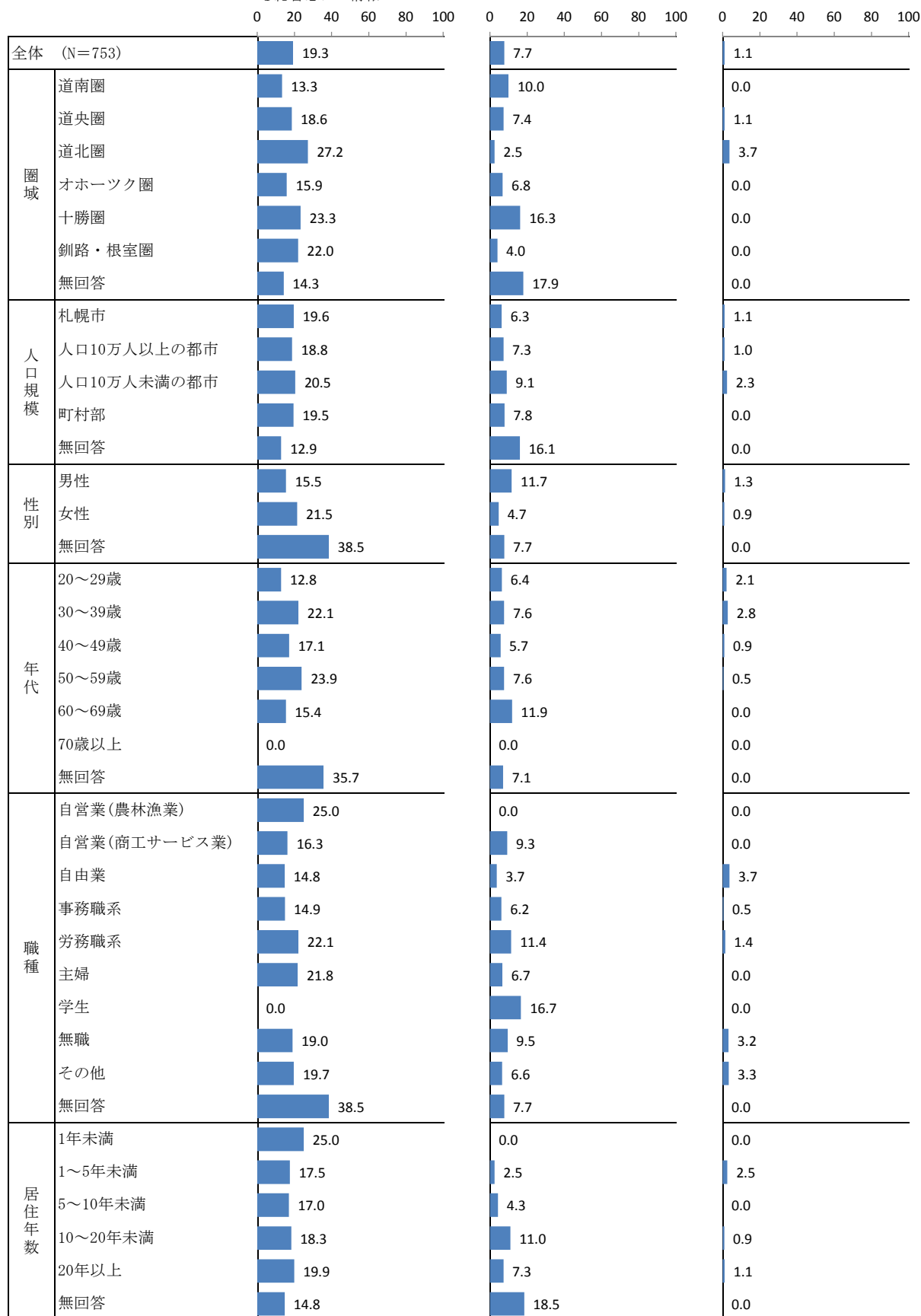
ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報



情報が多すぎて選択できない
ため、適切な支援先を案内する
総合窓口の情報

わからない

その他

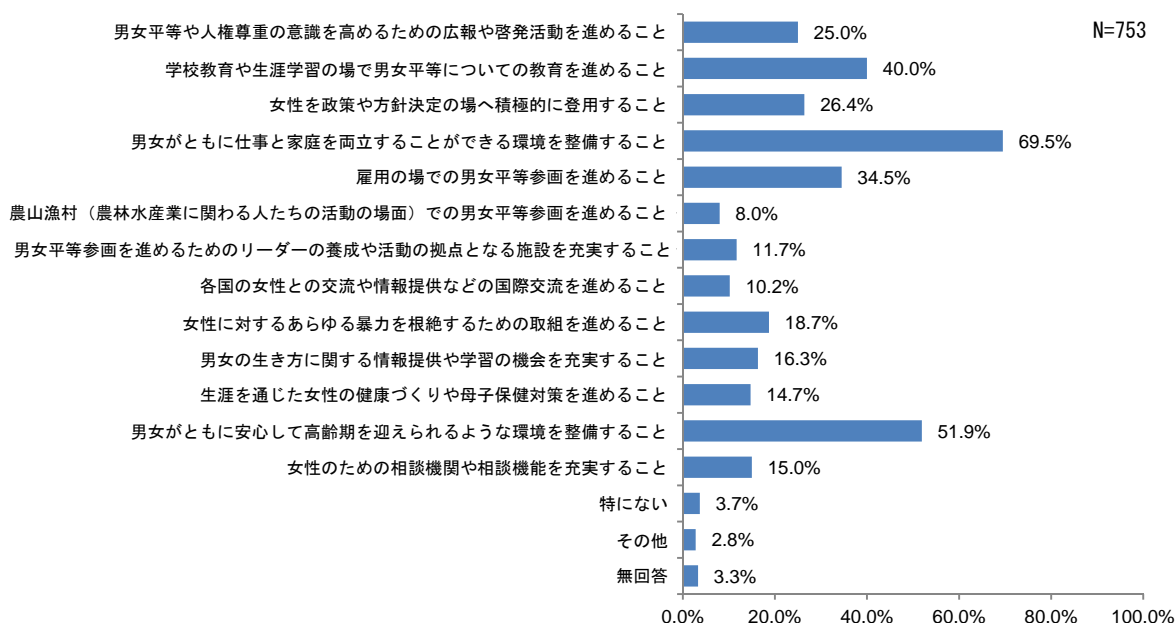


無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=753)		3.1
圏域	道南圏	5.0
	道央圏	2.9
	道北圏	0.0
	オホーツク圏	9.1
	十勝圏	2.3
	釧路・根室圏	2.0
	無回答	3.6
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の都市		3.1
人口10万人未満の都市		3.8
町村部		2.3
無回答		6.5
性別	男性	2.2
	女性	3.3
	無回答	15.4
年代	20～29歳	4.3
	30～39歳	0.0
	40～49歳	4.3
	50～59歳	2.2
	60～69歳	3.5
	70歳以上	0.0
	無回答	21.4
職種	自営業(農林漁業)	0.0
	自営業(商工サービス業)	4.7
	自由業	0.0
	事務職系	3.6
	労務職系	2.9
	主婦	2.6
	学生	16.7
	無職	3.2
	その他	0.0
	無回答	15.4
居住年数	1年未満	0.0
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	2.1
	10～20年未満	1.8
	20年以上	3.6
	無回答	3.7

問7 女性と男性が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に、共同で平等に参画する社会（男女平等参画社会）を実現するために、北海道の施策として何が重要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」（69.5%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「男女がともに安心して高齢期を迎えられるような環境を整備すること」（51.9%）、「学校教育や生涯学習の場で男女平等についての教育を進めること」（40.0%）の順となっている。

【圏域別】

「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」については、道央圏（72.7%）が最も割合が高く、次いで道南圏（71.7%）となっている。「男女がともに安心して高齢期を迎えられるような環境を整備すること」については、オホーツク圏（59.1%）が最も割合が高く、次いで十勝圏（55.8%）となっている。

【人口規模別】

「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」については、札幌市（74.2%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市（70.2%）となっている。「男女がともに安心して高齢期を迎えられるような環境を整備すること」については、人口10万人以上の都市（55.5%）が最も割合が高く、次いで札幌市（53.5%）となっている。

【性別】

「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」については、男性64.7%、女性73.3%となっており、「男女がともに安心して高齢期を迎えられるような環境を整備すること」については、男性49.5%、女性54.1%となっている。

【年代別】

「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」については、30～39歳（74.5%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（73.5%）となっている。「男女がともに安心して高齢期を迎えられるような環境を整備すること」については、70歳以上（66.7%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（58.7%）となっている。

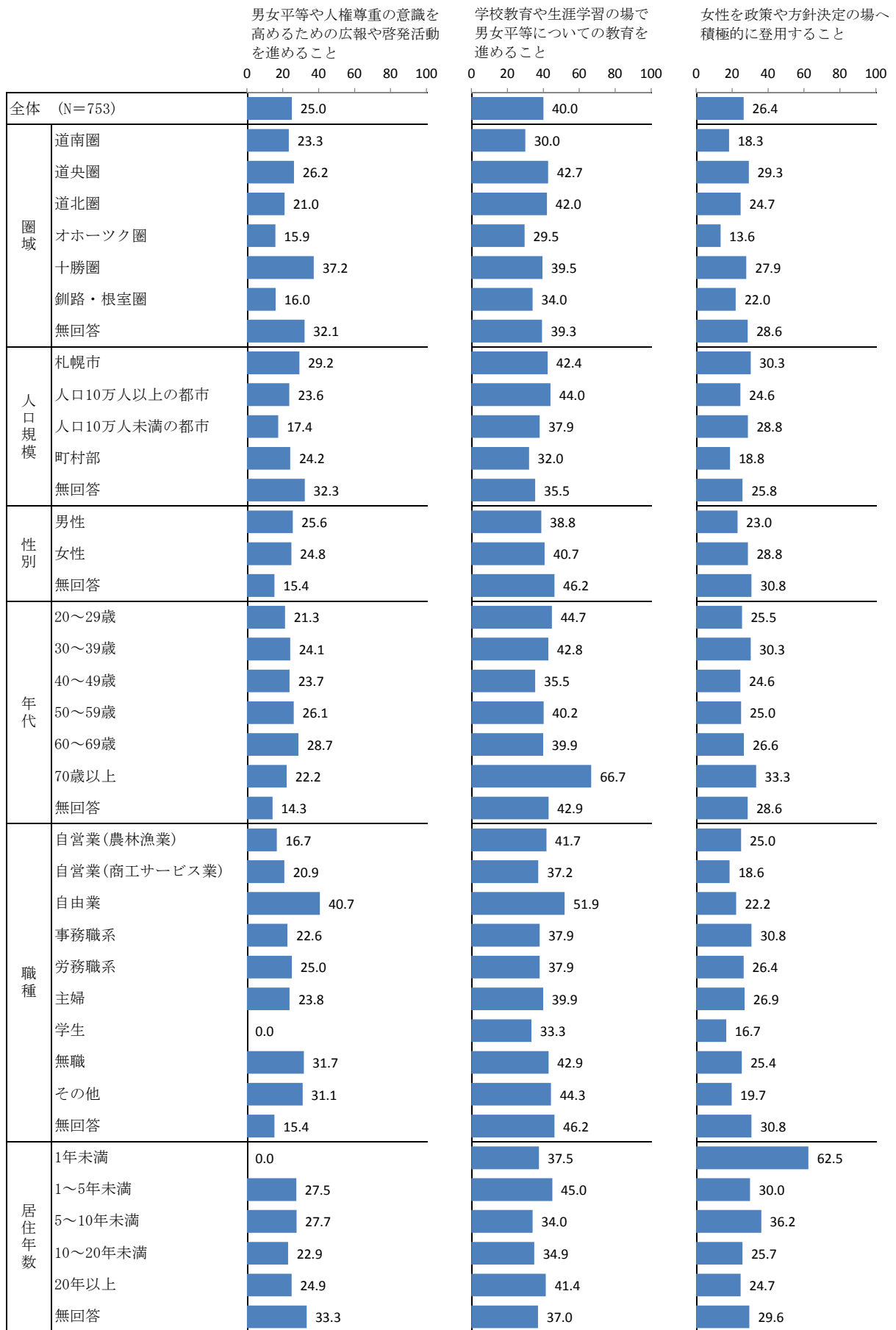
【職種別】

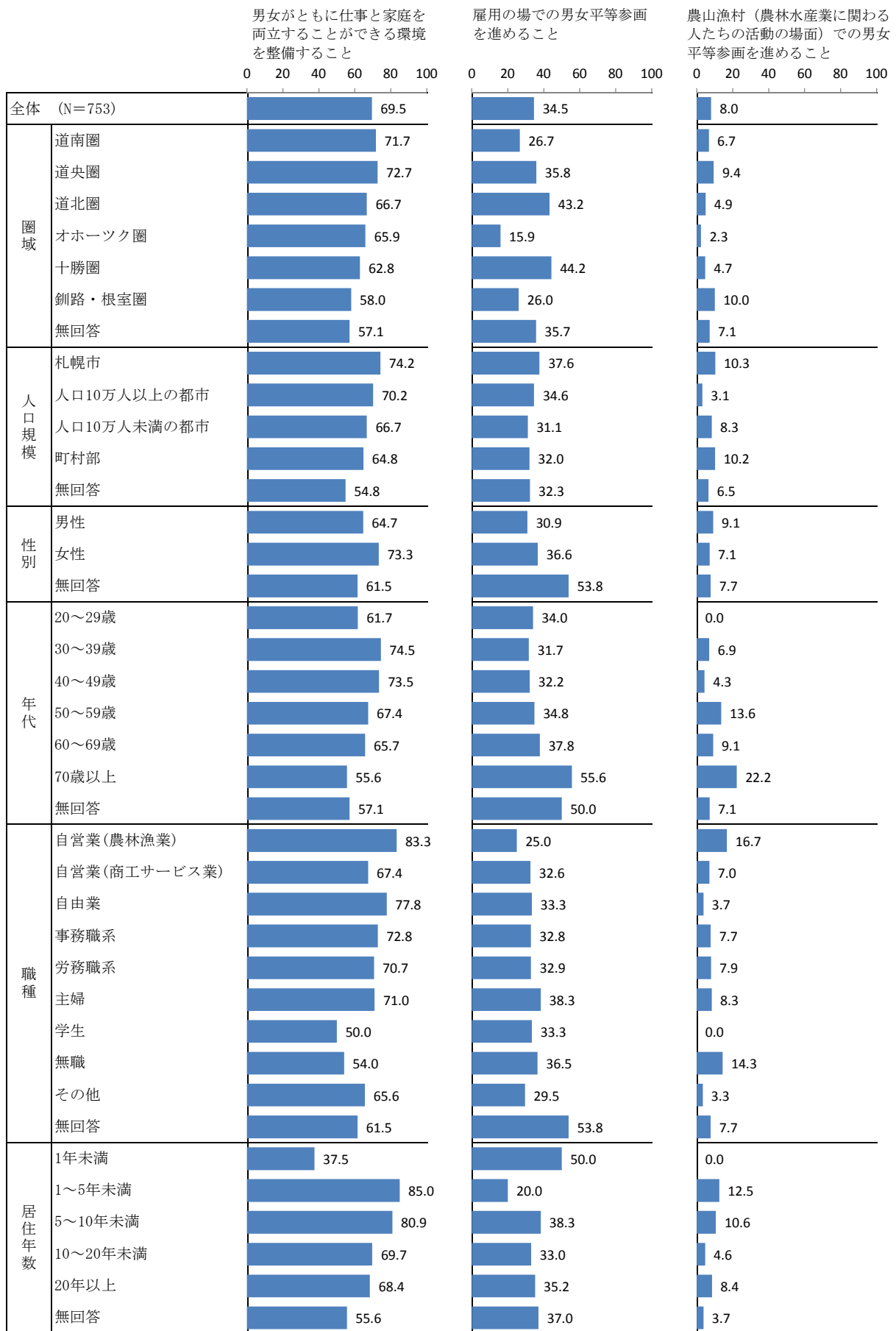
「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」については、自営業（農林

漁業) (83.3%) が最も割合が高く、次いで自由業 (77.8%) となっている。「男女がともに安心して高齢期を迎えられるような環境を整備すること」については、自営業 (農林漁業) (58.3%) が最も割合が高く、次いでその他 (55.7%) となっている。

【居住年数別】

「男女がともに仕事と家庭を両立することができる環境を整備すること」については、1～5 年未満 (85.0%) が最も割合が高く、次いで 5～10 年未満 (80.9%) となっている。「男女がともに安心して高齢期を迎えられるような環境を整備すること」については、10～20 年未満 (54.1%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上 (53.6%) となっている。

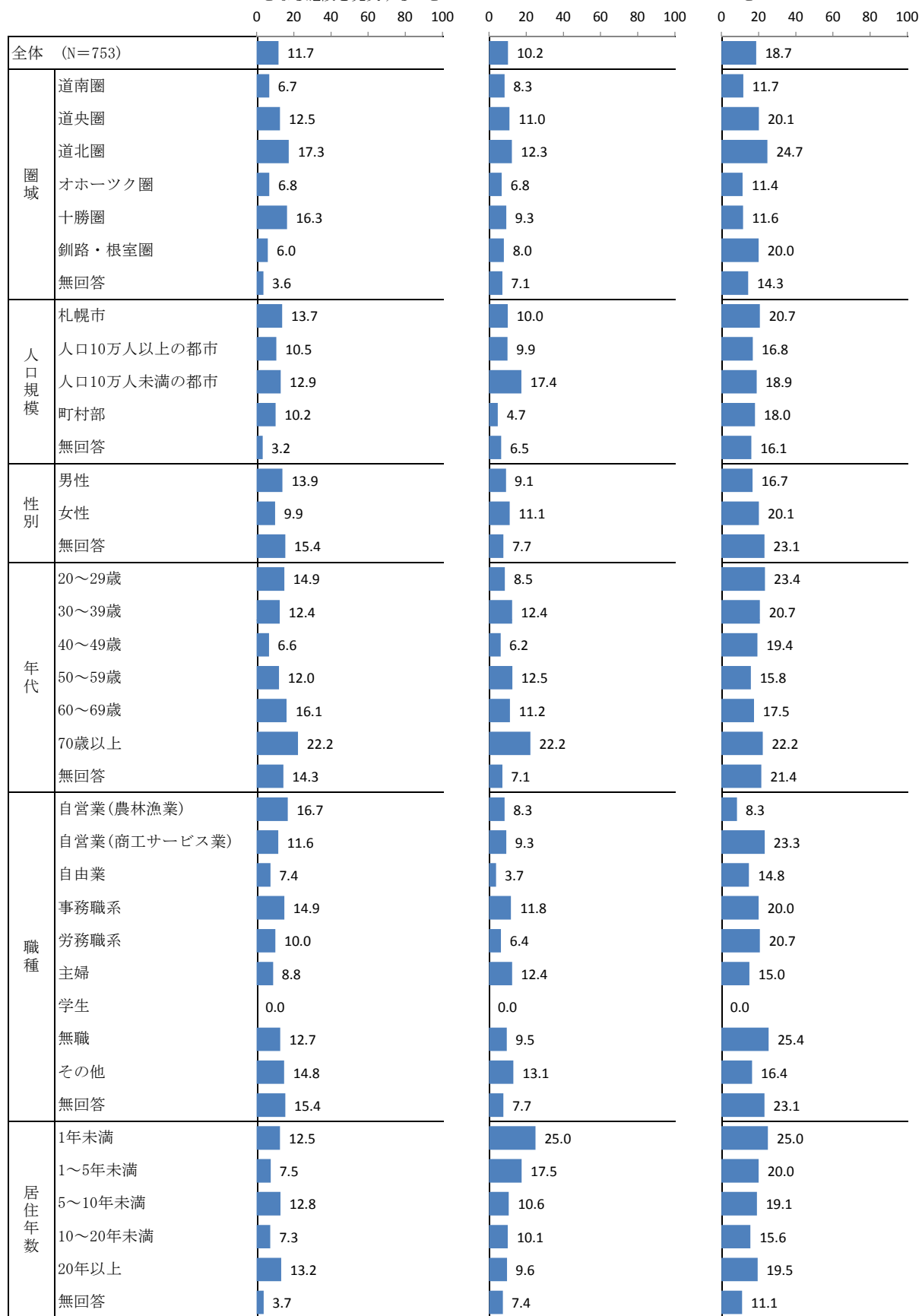


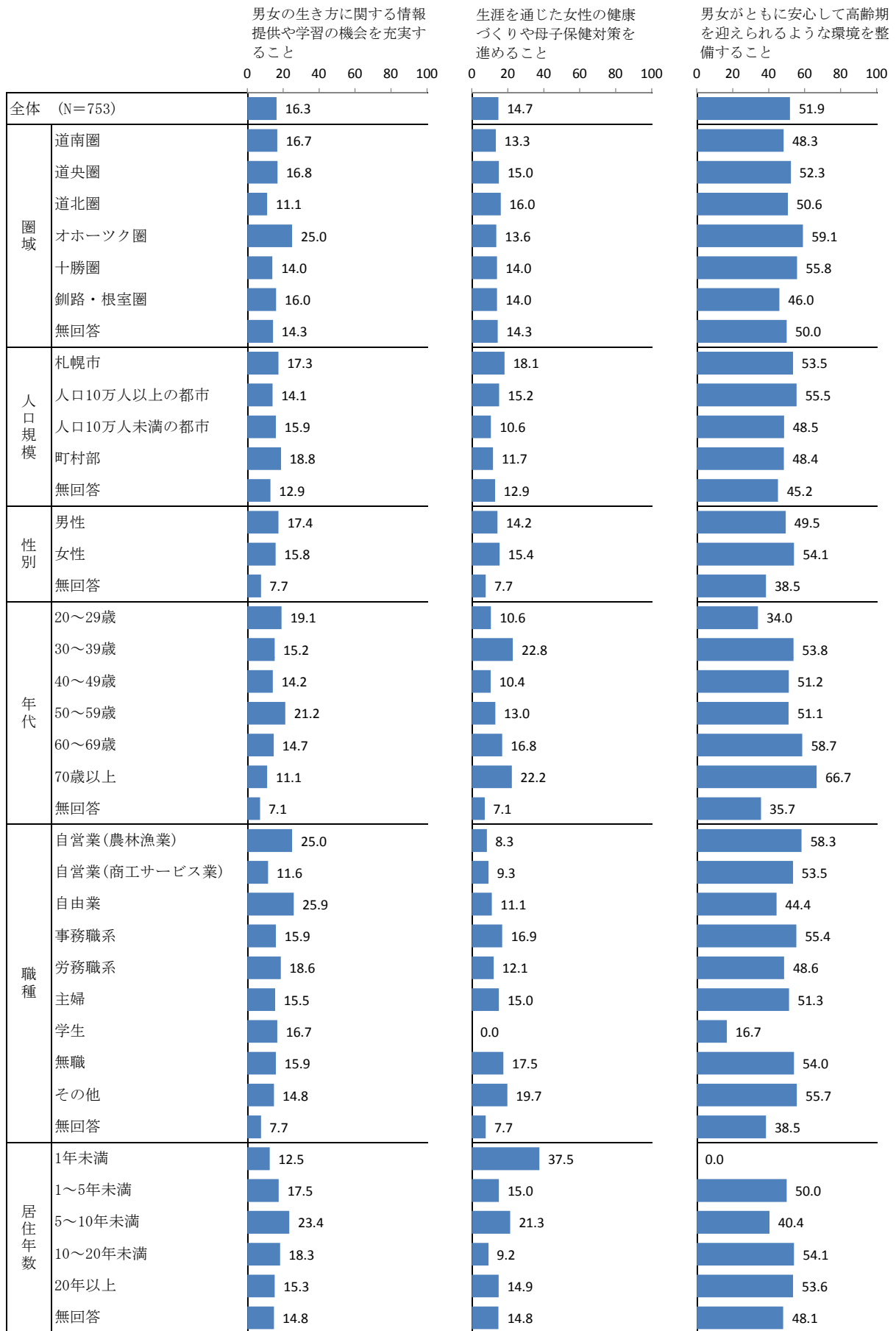


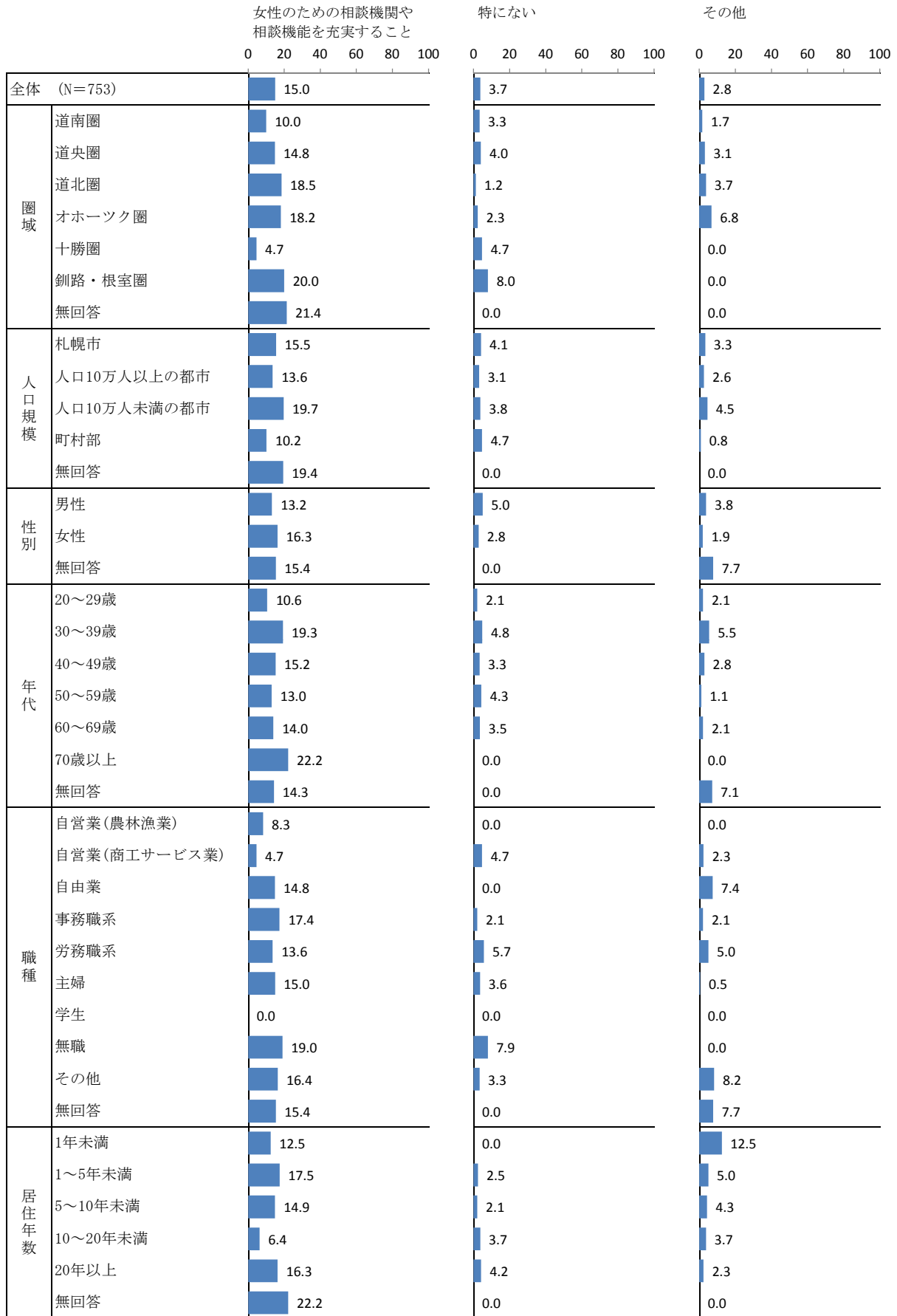
男女平等参画を進めるための
リーダーの養成や活動の拠点
となる施設を充実すること

各国の女性との交流や情報提供
などの国際交流を進めること

女性に対するあらゆる暴力を
根絶するための取組を進める
こと

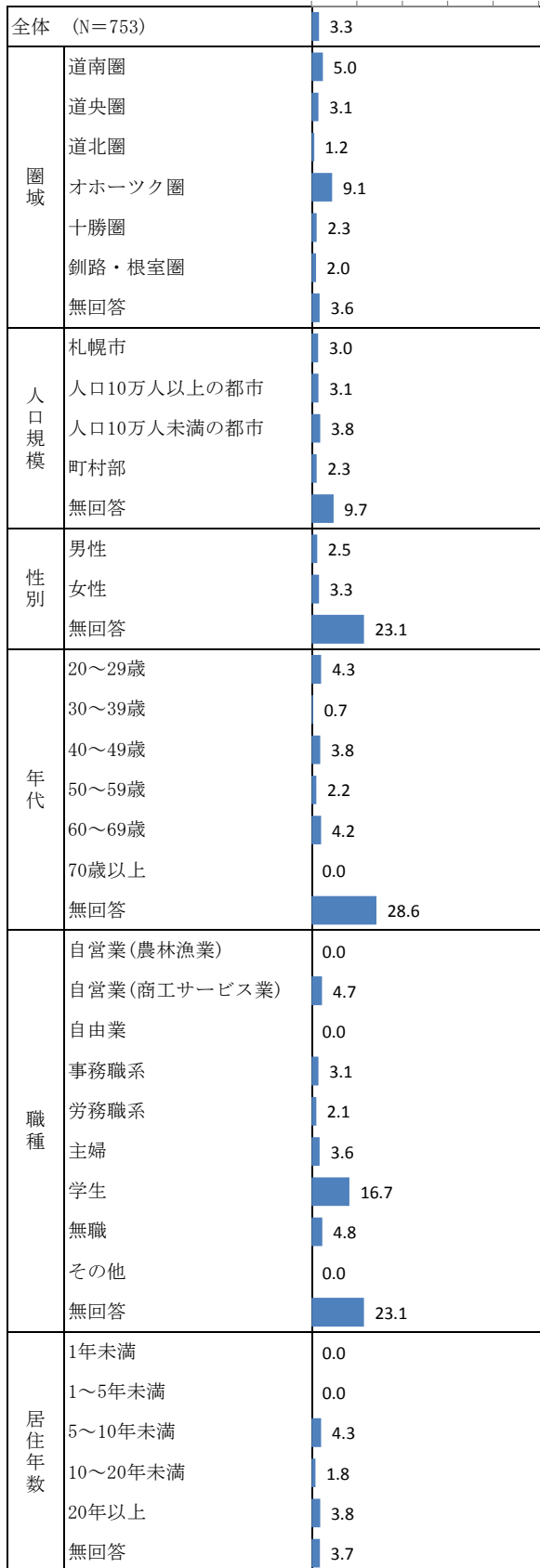






無回答

0 20 40 60 80 100



「男女平等参画について」の調査を終えて

道民の男女平等参画に関する意識について、分野別で回答を見ると「学校教育の場で」では49%の人が「男女平等になっている」と答えている一方、「政治の場で」や「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、10%前後と非常に低い割合となっている。

このことは、道内において、現在、女性の市町村長がいないことや、全国に比べて地方議会における女性議員の数が少ないこと等が反映されているものと考えられる。

「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感しますか、それとも同感しませんか」の問については、平成14年度の調査結果と比較し、「同感する」が約7%減少し9.7%、「同感しない」は約8%増加し46.1%と、意識の変化が見受けられる結果となった。

本調査の結果は、今後の北海道男女平等参画基本計画の改定や女性の活躍推進に関する施策を検討するうえで、重要な資料として活用していく。

(環境生活部くらし安全局道民生活課女性支援室)